

第5章

資料

感染症発生動向調査事業定点一覧

内科定点 (60)

(平成26年12月31日現在)

医療機関名	所在地	電話番号
坂本クリニック	鶴見区生麦5-6-2	505-0347
渡辺医院	鶴見区潮田町3-133-2	501-6457
橋本小児科	鶴見区下末吉1-24-15	581-5447
内科・小児科前広医院	鶴見区豊岡町10-7	571-2333
杉浦内科クリニック	神奈川区白楽100-5 白楽コミュニティプラザ3F	402-5650
藤江医院	神奈川区平川町26-2	491-8578
薩田内科クリニック	神奈川区菅田町2647 菅田町メディカルビル1F	477-4022
福澤クリニック	神奈川区片倉1-9-3 まるあびる1F	488-5123
鈴木内科クリニック	西区戸部町5-204	231-3355
スカイビル内科	西区高島2-19-12 スカイビル21F	461-1603
新妻クリニック	中区根岸町3-176-39	629-3585
川俣クリニック	中区麦田町4-107 ライフ山手2F	624-2960
室橋内科医院	中区本牧三之谷23-16	621-0139
鵜養医院	南区宮元町3-55	731-2308
よなみね内科クリニック	南区共進町1-34 森ビル1F	720-6008
あずま医院	南区清水ヶ丘1-21	231-7026
黒沢クリニック	港南区港南台7-42-30 サンライズ港南台2F201	833-9632
古家内科医院	港南区丸山台2-34-8	844-3080
宮川医院	港南区上大岡西1-12-17	842-0978
川村クリニック	保土ヶ谷区権太坂1-52-14	742-1010
篠崎医院	保土ヶ谷区上星川3-15-5	371-0038
浅野医院	保土ヶ谷区西谷町866	371-3018
黒田医院	旭区柏町47-11	364-9772
左近山クリニック	旭区左近山1186-6左近山団地7-14-101	351-6541
若葉台クリニック	旭区若葉台1-3-116	921-3700
石田クリニック	旭区白根6-1-3	953-3308
遠藤内科	磯子区栗木1-28-27	773-7273
板垣医院	磯子区洋光台3-5-31	833-6141
富野医院	磯子区岡村6-5-35	752-3221
いとうファミリークリニック	金沢区谷津町378	783-5769
並木クリニック	金沢区並木2-9-4	788-0888
桑原内科クリニック	金沢区六浦5-21-3-106	791-5751
中野こどもクリニック	港北区富士塚1-1-1	434-6500
服部クリニック	港北区大倉山1-28-3	545-0001
横山クリニック	港北区大倉山4-5-1 大倉山ハイム1-101	531-1575
石井内科医院	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
椎橋医院	港北区大豆戸町200 菊名レジデンスプラザ101号	401-9092
野村医院	緑区いぶき野8-15	981-2568
みなみ台小に科	緑区長津田みなみ台1-20-9	982-7041
田村内科クリニック	緑区十日市場町804-2 ホームストッププラザ十日市場西館101	989-6388
西川内科・胃腸科	青葉区あざみ野1-26-6	901-1241

医療機関名	所在地	電話番号
徳岡クリニック	青葉区荏田町477	911-6000
岡本診療所	青葉区青葉台1-29-5	981-9541
えなみクリニック	青葉区桂台2-27-21	962-9980
斉木クリニック	都筑区高山1-45 沖商事ビル102	941-0082
葛が谷つばさクリニック	都筑区葛が谷4-14 ヘルテゼゾン1F	945-2772
小林クリニック	都筑区すみれが丘38-31	592-0041
川上診療所	戸塚区川上町359	822-5074
内科小児科むかひら医院	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
半田医院	戸塚区平戸2-30-8	821-1235
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1 ケアハウスゆうあい4FB	822-3333
江口医院	栄区飯島町1413	891-0067
米田クリニック	栄区桂台北10-22	895-1300
大野内科医院	栄区本郷台3-1-6	896-0500
小林内科クリニック	泉区中田南2-2-2	801-2551
柏木医院	泉区和泉中央南1-37-7	802-8253
かねむらクリニック	泉区中田北2-6-14 アイイチビル 1F-B	805-6685
まいえ内科	瀬谷区橋戸2-31-3 グランデュールプラザ2F	301-8561
三ツ境ライフクリニック渡部内科	瀬谷区三ツ境2-1 三ツ境ライフB館	360-3558
本郷クリニック	瀬谷区本郷3-20-21	304-2017

小児科定点(92)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
田中小児科医院	鶴見区東寺尾2-15-34	581-2880
さくら診療所	鶴見区矢向5-4-34	581-6070
川端こどもクリニック	鶴見区生麦5-21-16	505-6670
石井医院	鶴見区生麦5-8-44	501-5531
渡部クリニック	鶴見区鶴見中央4-43-6	506-3657
大口東総合病院	神奈川区入江2-19-1	401-2411
くぼた小児科	神奈川区新子安1-2-4 オルトヨコハマビジネスセンター1F	438-0291
まつうら小児科・内科	神奈川区三ツ沢中町8-6	321-3171
鈴木小児科医院	神奈川区神大寺4-8-15	491-4510
大西医院	神奈川区反町4-27-16	324-2121
村瀬クリニック	神奈川区西神奈川1-12-7 東神奈川イースタービル1F	320-3306
富田こどもクリニック	西区藤棚町1-58-6	242-1543
西戸部こどもクリニック	西区西戸部町2-174	260-1495
青木小児科医院	西区境之谷73	231-4144
向山小児科医院	中区本牧三之谷22-1	623-7311
誠友医院	中区山下町113-4-3F	680-1283
寺道小児科医院	中区本牧町1-178	623-1021
小菅医院	中区石川町1-11-2 小菅医療ビル4F	651-6177
宇南山小児科医院	南区永田北3-36-5	714-1036
弘明クリニック	南区通町4-84 メルヘン弘明寺2F	721-3611

医療機関名	所在地	電話番号
弓削医院	南区睦町1-7-5	731-2653
宮地小児科クリニック	南区六ツ川3-86-5	716-1011
大川小児科医院	南区万世町2-27	231-4443
小島小児科医院	港南区東永谷2-2-20	823-1121
竹田こどもクリニック	港南区上永谷2-11-1 いずみプラザ上永谷112	846-1088
原口小児科医院	港南区丸山台3-41-1	845-6622
ふくお小児科・アレルギー科	港南区港南台1-48-7	833-7737
上大岡こどもクリニック	港南区上大岡西1-15-1 かにオ404-2	882-0810
星川小児クリニック	保土ヶ谷区星川2-4-1 星川SFビル4F	336-2260
おざき小児科	保土ヶ谷区仏向町121-2	348-4141
宮川内科小児科医院	保土ヶ谷区岩間町1-4-1	331-2478
横山医院	保土ヶ谷区峰岡町2-118	331-3296
北原医院	保土ヶ谷区上菅田町59	381-1622
琴寄医院	旭区鶴ヶ峰1-13-2	373-6752
おじま小児科	旭区二俣川2-58 大洋ビル2F	361-0212
サンクリニック	旭区柏町97-8	366-6822
川島医院	旭区上白根町891 西ひかりが丘団地18-5-102	952-2039
小林小児科医院	旭区二俣川1-65	361-6116
育愛小児科医院	旭区中白根1-10-15	951-1152
矢崎小児科	磯子区磯子2-13-13	751-4378
さいとう小児科	磯子区岡村7-20-14	752-4882
住田こどもクリニック	磯子区西町6-39	753-7151
バニーこども診療所	磯子区洋光台6-19-43	830-0767
浅井こどもクリニック	金沢区釜利谷東2-14-11 高野第2ビル2F	785-1152
江原小児科医院	金沢区並木1-14-2	773-8533
大久保医院	金沢区六浦南2-42-18	788-6565
高橋こどもクリニック	金沢区富岡東5-18-1 長谷川メディカルプラザ富岡2F-G	775-3111
ふじわら小児科	金沢区富岡西1-48-12	773-6333
あべこどもクリニック	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
小机診療所	港北区小机町1451	471-9696
大川小児クリニック	港北区綱島東2-12-19 福島ビル1F	546-1071
カンガルーこどもクリニック	港北区北新横浜1-2-3 三橋ビル1F	309-0755
斉藤小児科心とからだのクリニック	港北区高田東1-25-3	531-3574
マリアこどもクリニック	港北区岸根町408-123	430-5415
日吉こどもクリニック	港北区日吉本町1-9-26 MKハイム1F	560-1850
シブヤチャイルドクリニック	港北区大倉山3-56-22 ビュクス大倉山1F	542-6915
一色こどもクリニック	緑区白山1-1-3 ダイアレス鴨居1F	933-0061
ちはら小児クリニック	緑区霧が丘3-2-9	923-1226
森の子キッズクリニック	緑区中山町750番地1	929-5501
さかたに小児科	緑区台村町309-1 土井ビル1F	930-3110
ぼっけキッズクリニック	緑区長津田みなみ台6-24-13	988-5330
太田こどもクリニック	青葉区あざみ野1-8-2 あざみ野メディカルプラザ3F	909-5335
渡辺医院	青葉区奈良町1670-44	962-8126

医療機関名	所在地	電話番号
武沼小児科医院	青葉区青葉台1-13-13	981-6122
あざがみ小児クリニック	青葉区美しが丘西3-65-6	909-0092
はやし小児科医院	青葉区松風台13-5 ライト松風台3	983-3254
有本小児科内科	青葉区美しが丘2-20-18 トム有本101	901-6870
あかねファミリークリニック	青葉区あかね台1-17-38	985-6607
水野クリニック	都筑区南山田町4258	593-4040
大山クリニック	都筑区茅ヶ崎南5-1-10 ノール茅ヶ崎	941-7171
山下小児科クリニック	都筑区北山田3-18-15	593-9770
都筑メディカルクリニック	都筑区荏田南1-12-16	943-8801
こどもの木クリニック	都筑区荏田南3-1-7	947-1888
マサカ内科小児科	戸塚区品濃町523-3 マサカビル1F	823-7866
清田小児科医院	戸塚区戸塚町1505-3	861-3015
小雀小児科医院	戸塚区小雀町1123-2	852-2354
小泉小児クリニック	戸塚区汲沢8-5-5	871-5566
ドリーム小児科	戸塚区俣野町1404-8	851-3661
東戸塚小児クリニック	戸塚区品濃町535-2 ニューシティ東戸塚タワースシティ1st302	825-1799
吉田こどもクリニック	栄区野七里1-4-22	891-8888
若竹クリニック	栄区元大橋1-27-5	891-6900
内山小児科医院	栄区笠間2-31-13	892-4090
つちだこどもクリニック	栄区本郷台3-1-7	893-4176
あいかわこどもクリニック	泉区中田北2-6-14 アイイビル 1F	805-6605
渡辺こどもクリニック	泉区西が岡1-13-6	813-1618
緑園こどもクリニック	泉区緑園2-1-6-201	810-0555
はっとり小児科	泉区和泉中央南1-10-37 立場AMANOビル2F	804-4153
瀬谷こどもクリニック	瀬谷区中央1-10 カサ・デ・パティオ2F	304-0045
池部小児科・アレルギー科	瀬谷区三ツ境21-10 サニーハイツ三ツ境1F	360-6080
清水小児科	瀬谷区阿久和西3-1-13 あくわメディカルヴィレッジ内	360-9191
ひかりこどもクリニック	瀬谷区相沢2-60-6	306-1066

眼科定点(19)

医療機関名	所在地	電話番号
ちぐさ眼科医院	鶴見区鶴見中央4-16-3 トミヤビル4F	502-0222
安田眼科医院	神奈川区反町1-6-12 リキリアンサス1F	313-2022
秋山眼科医院	中区尾上町3-28	641-9361
吉野町眼科	南区山王町4-26-3 ストールビル秋山1F	260-6726
池袋眼科医院	港南区上大岡西1-18-5 ミオカM202	842-0380
小野江眼科	保土ヶ谷区帷子町1-12	335-2171
塚原眼科医院	旭区二俣川1-5-38 FSKビル2F	363-1102
洋光台眼科クリニック	磯子区洋光台3-13-5-110	835-0143
おいかわ眼科	金沢区能見台通8-1-2F	784-8558
つなしま眼科	港北区綱島西2-13-9 ウィンダムビル1F	531-7132
ひよし眼科	港北区日吉本町1-4-18 平林ビル1F	562-5331
宮崎眼科	緑区長津田みなみ台4-7-1 アビタ長津田店1F	989-1805

医療機関名	所在地	電話番号
眼科中井医院	青葉区美しが丘2-14-7	905-5777
木崎眼科	青葉区青葉台2-9-10 第3フジビル2F	985-3719
仲町台駅前眼科クリニック	都筑区仲町台1-7-12 ブリッジ二番館2F	942-4730
井上眼科	戸塚区柏尾町1016-2	822-2520
永井眼科医院	栄区本郷台3-1-3	893-5114
緑園都市眼科後藤クリニック	泉区緑園4-1-2 緑園都市ライフ2F	813-2277
高橋眼科クリニック	瀬谷区橋戸2-31-3 グランデュールプラザ2F	302-6337

性感染症定点(27)

医療機関名	所在地	電話番号
さなだ医院	鶴見区鶴見中央4-2-3	501-1117
熊切産婦人科	鶴見区豊岡町10-2	571-0211
原産科婦人科クリニック	神奈川区六角橋1-30-4	401-9511
コン産婦人科医院	神奈川区白楽71-8	432-2525
横浜相鉄ビル皮膚・泌尿器科医院	西区北幸1-11-5 相鉄KSCビル2F	311-3208
石橋泌尿器科皮フ科クリニック	中区長者町9-166-1 ソフィアヨハマ1F	263-0820
公平泌尿器科医院	南区井土ヶ谷下町213 第2江洋ビル4F	713-6311
みながわ泌尿器科クリニック	港南区上大岡西3-9-2 ルス・テ・ルナ1F	848-2118
木下クリニック	港南区丸山台3-11-15	843-4310
増田泌尿器科	保土ヶ谷区帷子町1-30-1 クオースビル2F	340-2667
浅井皮膚科クリニック	保土ヶ谷区帷子町1-14	334-3412
二俣川レディースクリニック	旭区本村町101-3 第7ハリス桜咲	360-2875
希望が丘いずみクリニック	旭区中希望が丘236-19	391-0567
たけだ泌尿器科クリニック	磯子区杉田1-17-1 プラサSUGITA201	771-3055
小野医院	金沢区洲崎町5-41	701-8771
片桐レディースクリニック	金沢区谷津町153-3	780-5513
新横浜母と子の病院	港北区鳥山町650-1	472-2911
大倉山レディースクリニック	港北区大倉山3-4-31 ヒルズ・カモ1F	545-5251
あまかす医院	緑区白山1-1-3	931-2404
レディースクリニック服部	青葉区美しが丘5-3-2	902-0303
ワキタ産婦人科	青葉区藤が丘2-6-1	973-7081
聖ローザクリニックセンター北	都筑区中川中央1-29-24 アビテノール3C	914-6355
山本内科・タワーズ皮膚科	戸塚区品濃町535-2 中央街区D棟306	825-5871
坂西医院泌尿器科	戸塚区矢部町645-10	862-5677
オカノ泌尿器科皮フ科医院	栄区笠間5-20-19 斉藤ビル2F	891-5860
泌尿器科あべクリニック	泉区中田西1-1-27 ネクストアイ3F	805-5808
まきずみ泌尿器科	瀬谷区瀬谷3-1-29 瀬谷メディカルプラザ2F	300-3711

基幹病院定点(4)

医療機関名	所在地	電話番号
済生会横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	832-1111
横浜市立市民病院	保土ヶ谷区岡沢町56	331-1961

医療機関名	所在地	電話番号
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院	旭区矢指町1197-1	366-1111
昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	971-1151

病原体定点(16)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科 (小児科)	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
室橋内科医院 (内科)	中区本牧三之谷23-16	621-0139
とみい眼科 (眼科)	中区伊勢佐木町6-143-2 ITビル1F	261-1103
片山こどもクリニック (小児科)	港南区上大岡西2-3-6 ビルディングアルタ2F	844-7577
済生会横浜市南部病院 (基幹)	港南区港南台3-2-10	832-1111
横浜市立市民病院 (基幹)	保土ヶ谷区岡沢町56	331-1961
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 (基幹)	旭区矢指町1197-1	366-1111
さいとう小児科 (小児科)	磯子区岡村7-20-14	752-4882
石井内科医院 (内科)	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
あべこどもクリニック (小児科)	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
有本小児科内科 (小児科)	青葉区美しが丘2-20-18 トムス有本101	901-6870
はやし小児科医院 (小児科)	青葉区松風台13-5 ライムライト松風台3	983-3254
昭和大学藤が丘病院 (基幹)	青葉区藤が丘1-30	974-8143
内科小児科むかひら医院 (内科)	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
瀬谷こどもクリニック (小児科)	瀬谷区中央1-10 カサ・テ・パティオ2F	304-0045
清水小児科 (小児科)	瀬谷区阿久和西3-1-13 あくわメディカルビル内	360-9191

疑似症定点(単独は56定点、内科定点60小児科定点92を加え208定点)

医療機関名	所在地	電話番号
クリニック寺尾	鶴見区馬場4-40-12	571-0792
鶴見クリニック	鶴見区豊岡町6-9 サンワイスビル3F	584-8233
くらた内科クリニック	鶴見区豊岡町2-3 フーガビル505号室	576-3370
岡本こどもクリニック	鶴見区豊岡町7-7 鶴見駅西口医療ビル1F	570-0377
あしほ総合クリニック	鶴見区鶴見中央3-10	508-3611
井関医院	神奈川区栄町6-1 ヨコハマポータルサイドロア式番館1F	451-6864
ななしまクリニック	神奈川区七島町161-5	401-9884
神之木クリニック	神奈川区西寺尾3-25-19-4F	435-0113
三ツ沢ハイタウンクリニック	西区宮ヶ谷25-2 三ツ沢ハイタウン1-111	312-0290
いちの内科クリニック	西区平沼1-2-12 甘糟平沼ビル2F	314-1125
中島医院	中区大和町2-34-5 山手駅前クリニックビル1F	621-8713
南永田診療所	南区永田みなみ台2-12-102	714-4880
上六ッ川内科クリニック	南区六ッ川1-873-3	306-8026
横浜ひまわりクリニック	南区西中町4-72	231-5550
岡内科クリニック	港南区上大岡西1-19-18 長瀬ビル3F	841-0133
栗原医院	港南区大久保2-7-19	842-9066
諏訪クリニック	港南区港南台2-11-17	834-1651

医療機関名	所在地	電話番号
豊福医院	港南区上永谷3-18-16	844-2255
新桜クリニック	保土ヶ谷区新桜ヶ丘2-24-12-2F	352-4482
くぬぎ台診療所	保土ヶ谷区川島町1404 くぬぎ台団地1-5-104	371-5278
小泉内科・胃腸科クリニック	保土ヶ谷区星川1-4-5	331-3325
西山皮膚科	旭区中希望が丘100-4 希望が丘センタービル2F	360-7538
いわま内科クリニック	旭区今宿西町475	958-2377
白根診療所	旭区白根5-16-30	953-8881
つくしクリニック	旭区今宿2-63-14	360-0028
藤田小児科	磯子区杉田1-20-22 三葉ビル	771-2671
土屋内科医院	磯子区栗木1-20-5	773-0011
小谷医院	金沢区能見台3-7-7	773-5551
山口診療所	金沢区釜利谷東2-20-9 クリニックビル2F	785-3912
とみおか診療所	金沢区富岡東6-1-3	773-7213
富岡皮膚科クリニック	金沢区富岡西7-3-3 斉木ビル2F	773-2212
高田中央病院	港北区高田西2-6-5	592-5557
大倉山記念病院	港北区樽町1-1-23	531-2546
えびすクリニック	港北区綱島西2-7-2 第7吉田ビル2F	546-8611
日横クリニック	港北区日吉本町1-20-16 日吉教養センタービル2F	563-4115
まつみ医院	港北区日吉本町5-4-1	561-9300
佐々木消化器科内科	港北区綱島東2-12-19 福島クリニックビル3F	545-4588
鴨居小児科内科医院	緑区鴨居1-3-13-107	935-3281
さいとうクリニック	緑区北八朔町1208-1	932-6555
松田クリニック	青葉区美しが丘西2-6-3	909-0130
さつきが丘こどもクリニック	青葉区さつきが丘4-10 アモンビル1F	971-2239
井上小児科医院	青葉区市ヶ尾町1167-1 ラバーブル昌和1F	972-0250
川瀬医院	青葉区田奈町45-6	981-3111
あざみ野皮膚科	青葉区あざみ野2-9-11 サンサーラあざみ野ビル3F	905-1241
山本皮フ科クリニック	青葉区新石川3-15-16 TMIビル 1103	910-5033
山口医院	都筑区中川1-5-9	912-2188
小川メディカルクリニック	都筑区荏田南3-37-15 横浜青葉クリニックセンター2F	943-6566
荒井皮膚科クリニック	都筑区茅ヶ崎南3-1-60 サ・グレイス2F	945-1112
うえの小児科クリニック	戸塚区吉田町944-5 KAWARA1F	869-0311
ゆめはまクリニック	戸塚区舞岡町3406	828-2007
わかば医院	戸塚区深谷町55-71	851-3232
しばた医院	戸塚区戸塚町2810-8 土屋クリニックビル1F	865-6666
よしい内科クリニック	戸塚区汲沢1-10-46 踊場メディカルセンター2F	861-2511
山崎脳神経外科	栄区長沼町188-8	871-3996
杉本医院	栄区柏陽20-27	891-5417
みたに内科循環器科クリニック	泉区和泉中央南3-1-66 フォレストいずみ中央	806-5067

横浜市感染症発生動向調査事業実施要綱

制 定 平成 12 年 11 月 27 日衛感第 340 号（局長決裁）

最近改正 平成 26 年 9 月 19 日健健安第 1023 号（局長決裁）

第 1 趣旨

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行に伴い、厚生労働省が定めた「感染症発生動向調査事業実施要綱」（以下「国要綱」という。）を基本に、横浜市において、感染症発生動向調査事業を実施するために必要な事項を定める。

第 2 対象感染症

本事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

1 全数把握の対象

一類感染症

(1) エボラ出血熱、(2) クリミア・コンゴ出血熱、(3) 痘そう、(4) 南米出血熱、(5) ペスト、(6) マールブルグ病、(7) ラッサ熱

二類感染症

(8) 急性灰白髄炎、(9) 結核、(10) ジフテリア、(11) 重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属 S A R S コロナウイルスであるものに限る。）、(12) 鳥インフルエンザ（H5N1）

三類感染症

(13) コレラ、(14) 細菌性赤痢、(15) 腸管出血性大腸菌感染症、(16) 腸チフス、(17) パラチフス

四類感染症

(18) E 型肝炎、(19) ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む。）、(20) A 型肝炎、(21) エキノコックス症、(22) 黄熱、(23) オウム病、(24) オムスク出血熱、(25) 回帰熱、(26) キャサヌル森林病、(27) Q 熱、(28) 狂犬病、(29) コクシジオイデス症、(30) サル痘、(31) 重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 S F T S ウイルスであるものに限る。）、(32) 腎症候性出血熱、(33) 西部ウマ脳炎、(34) ダニ媒介脳炎、(35) 炭疽、(36) チクングニア熱、(37) つつが虫病、(38) デング熱、(39) 東部ウマ脳炎、(40) 鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く。）、(41) ニパウイルス感染症、(42) 日本紅斑熱、(43) 日本脳炎、(44) ハンタウイルス肺症候群、(45) B ウイルス病、(46) 鼻疽、(47) ブルセラ症、(48) ベネズエラウマ脳炎、(49) ヘンドラウイルス感染症、(50) 発しんチフス、(51) ボツリヌス症、(52) マラリア、(53) 野兎病、(54) ライム病、(55) リッサウイルス感染症、(56) リフトバレー熱、(57) 類鼻疽、(58) レジオネラ症、(59) レプトスピラ症、(60) ロッキー山紅斑熱

五類感染症（全数）

(61)アメーバ赤痢、(62)ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）、(63)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(64)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）、(65)クリプトスポリジウム症、(66)クロイツフェルト・ヤコブ病、(67)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(68)後天性免疫不全症候群、(69)ジアルジア症、(70)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(71)侵襲性髄膜炎菌感染症、(72)侵襲性肺炎球菌感染症、(73)水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）、(74)先天性風しん症候群、(75)梅毒、(76)播種性クリプトコックス症、(77)破傷風、(78)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(79)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(80)風しん、(81)麻しん、(82)薬剤耐性アシネトバクター感染症

新型インフルエンザ等感染症

(108)新型インフルエンザ、(109)再興型インフルエンザ

指定感染症

(110)中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSCORONAウイルスであるものに限る。)、(111)鳥インフルエンザ（H7N9）

2 定点把握の対象

五類感染症（定点）

(83)RSウイルス感染症、(84)咽頭結膜熱、(85)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(86)感染性胃腸炎、(87)水痘、(88)手足口病、(89)伝染性紅斑、(90)突発性発しん、(91)百日咳、(92)ヘルパンギーナ、(93)流行性耳下腺炎、(94)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）、(95)急性出血性結膜炎、(96)流行性角結膜炎、(97)性器クラミジア感染症、(98)性器ヘルペスウイルス感染症、(99)尖圭コンジローマ、(100)淋菌感染症、(101)クラミジア肺炎（オウム病を除く。）、(102)細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)、(103)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(104)マイコプラズマ肺炎、(105)無菌性髄膜炎、(106)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(107)薬剤耐性緑膿菌感染症

法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(112)摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)若しくは(113)発熱及び発しん又は水疱（ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。）

3 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象

二類感染症

(12)鳥インフルエンザ（H5N1）

第3 実施主体

実施主体は、健康福祉局健康安全課（以下「健康福祉局」という。）、衛生研究所及び各区福祉保健センター（以下「福祉保健センター」という。）とする。

第4 実施体制の整備

1 横浜市感染症情報センター

地方感染症情報センターとして横浜市感染症情報センター（以下「感染症情報センター」という。）を、衛生研究所感染症・疫学情報課内に設置する。感染症情報センターは、横浜市内における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、健康福祉局及び福祉保健センターへ報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開する。

2 指定届出機関（定点）

健康福祉局は、定点把握対象の五類感染症について、患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集するため、患者定点、疑似症定点及び病原体定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。

3 横浜市感染症発生動向調査委員会

横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、疫学等の専門家、福祉保健センター及び衛生研究所の代表、医師会の代表等からなる横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「感染症委員会」という。）を置く。

感染症委員会の事務局は感染症情報センター及び健康福祉局とし、感染症委員会の運営については、横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱に定める。

第5 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び全数把握対象の五類感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

国要綱に定めるとおりとする。

イ 福祉保健センター

(ア) 当該届出を受けた福祉保健センターは、速やかに国が定める届出基準を参照し、届出の内容が合致するかどうか点検を行う。記載もれや不明な点は、届出を行った医師に確認し、必要に応じて補記・補正を行い、発生届を感染症情報センター及び健康福祉局に送付する。

また、当該患者（四類感染症については、第2の(52)を除く。また、全数把握対象の五類感染症については、第2の(61)、(63)、(64)、(66)、(67)、(68)、(70)、(71)、(72)、(74)又は(76)から(82)までとする。）を診断した医師に対して、必要に応じて病

原体検査のための検体又は病原体情報の衛生研究所への提供について、別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）」を添付して依頼する。

- (イ) 福祉保健センターは、オ(ア)により衛生研究所から検体の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）（医療機関あて検査結果通知用）」により速やかに送付する。

ウ 健康福祉局

- (ア) 健康福祉局は、福祉保健センターからイ(ア)による送付があった場合は、直ちに、内容の点検等を行ったうえで、感染症情報センターと連絡もれがないか等、確認する。
- (イ) 健康福祉局は、届出を受けた感染症にかかる発生状況や感染症情報センターから提供のあった患者情報及び病原体情報等について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。

エ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、福祉保健センターからイ(ア)による送付があった場合は、直ちに、届出内容を感染症発生動向調査システムに入力する。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市内の全ての患者情報及び病原体情報（検査情報を含む。）を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

オ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）」及び検体又は病原体情報が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）（福祉保健センターあて結果通知用）」により福祉保健センターに送付する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、中央感染症情報センターへ伝送する。
- (イ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- (ウ) 衛生研究所は、患者が一類感染症と診断されている場合、横浜市域を超えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあつては、検体を国立感染症研究所に送付する。

2 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、行政区ごとに医療機関の中から患者定点を選定する。

なお、患者定点の種類、その対象疾患及び定点数については、国要綱に定めるとおりとする。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、健康福祉局は、原則として、患者定点として選定された医療機関の中から病原体定点を選定する。

なお、病原体定点の種類、その対象疾患及び定点数については、国要綱に定めるとおりとする。

(3) 調査単位等

国要綱に定めるとおりとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、国が定める報告基準により、患者発生状況の把握を行う。

(イ) 2の(ア)により選定された定点把握対象の指定医療機関においては、国が定める基準及び様式に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。

(ウ) (イ)の患者発生状況等の情報については、指定された方法により福祉保健センター又は感染症情報センターへ報告する。

イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、国が定める病原体検査指針により、微生物学的検査のために検体を採取する。

(イ) 病原体定点で採取された検体は、別記様式「病原体定点からの検査依頼書」を添えて、速やかに衛生研究所へ送付する。

ウ 福祉保健センター

福祉保健センターは、ア(ウ)により定点把握対象の指定医療機関から得られた患者情報を、調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症情報センターへ送付する。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報についても、感染症情報センター及び健康福祉局へ報告する。

エ 健康福祉局

健康福祉局は、感染症情報センターから情報提供のあった患者情報及び病原体情報について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。

オ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、患者定点又は福祉保健センターから患者情報の報告があり次第、感染症発生動向調査システムに入力する。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

カ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、イ(イ)により別記様式「病原体定点からの検査依頼書」及び検体が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を病原体情報として、別記様式「病原体定点からの検査依頼書（医療機関あて検査結果通知用）」により病原体定点に通知するとともに、感染症発生動向調査に必要な病原体情報をコンピュータ・オンラインシステムにより、中央感染症情報センターへ伝送する。
- (イ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- (ウ) 衛生研究所は、横浜市域を超えた集団発生があつた場合等の緊急の場合にあつては、検体を国立感染症研究所に送付する。

3 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする感染症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

(2) 疑似症定点の選定

疑似症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、行政区ごとに医療機関の中から疑似症定点を選定する。

(3) 実施方法

ア 疑似症定点

- (ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時において、国が定める報告基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行う。
- (イ) (2)により選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、国が定める基準に従い、直ちに疑似症発生状況等を記載する。なお、当該疑似症の届出については、原則として症候群サーベイランスシステムへの入力により実施する。

(ウ) (イ)の届出に当たっては法施行規則第7条に従い行う。

イ 健康福祉局

健康福祉局は、疑似症の発生状況等を把握し、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

ウ 感染症情報センター

(ア) 感染症情報センターは、疑似症定点において症候群サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、症候群サーベイランスシステムに入力する。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報についても、健康福祉局へ報告する。

(イ) 感染症情報センターは、横浜市内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

4 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の実施方法

(1) 福祉保健センター

鳥インフルエンザ(H5N1)に係る積極的疫学調査を実施した福祉保健センターは、国の定める基準に従い、関係書類を健康福祉局及び感染症情報センターに送付する。医療機関から検体が提出される場合には、感染症情報センターに連絡した上で、医療機関から検体を受け取り、衛生研究所へ搬入する。

(2) 感染症情報センター

ア 感染症情報センターは、(1)により得られた情報を、直ちに疑い症例調査支援システムに入力する。

イ 医療機関より検体が提出される場合には、疑い症例調査支援システムが発行する検査依頼票を打ち出し、衛生研究所に送付する。

(3) 衛生研究所

ア 衛生研究所は、検体が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その内容を直ちに感染症情報センターに送付する。

イ 鳥インフルエンザ(H5N1)に係る積極的疫学調査の結果を厚生労働省に報告する場合にあつては、法施行規則第9条第2項に従い、検体を国立感染症研究所に送付する。検体を送付する場合においては、(2)イにより感染症情報センターから送付された検査依頼票を添付する。

第6 その他

本要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて健康福祉局長が定めることとする。

なお、感染症発生動向調査事業については、本要綱に基づき実施することとし、結核発生動向調査事業については、従来の「横浜市結核・感染症発生動向調査事業実施要綱」に基づき実施することとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この実施要綱は、平成15年11月5日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年6月12日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成20年1月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成20年5月12日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成23年2月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な

か所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 25 年 10 月 14 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 26 年 9 月 19 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

別記様式一覧表

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症
検査票（病原体）（4枚複写式）

（医療機関控）

（福祉保健センター控）

（福祉保健センターあて検査結果通知用）

（医療機関あて検査結果通知用）

病原体定点からの検査依頼書（3枚複写式）

（医療機関控）

（衛生研究所控）

（医療機関あて検査結果通知用）

横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱

最近改正 平成 23 年 5 月 24 日 健健安第 304 号（局長決裁）

（設置）

第 1 条 横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的、効率的な運用を図るため、横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第 2 条 委員会は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号。以下「法」という。）第 16 条の規定に基づき、法第 12 条から第 15 条までの規定により収集した感染症に関する情報について分析を行い、感染症の予防のための情報を積極的に公表する。

（組織）

第 3 条 委員会は、委員 6 人以上 10 人以下をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから健康福祉局長が任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 横浜市医師会を代表する者
- (3) 福祉保健センター及び衛生研究所の代表

（委員の任期）

第 4 条 委員の任期は、3 年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（委員長及び副委員長）

第 5 条 委員会に、委員長及び副委員長 1 人を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（招集）

第 6 条 委員会の会議は、委員長が毎月 1 回、その他必要に応じて招集する。

（議事の運営）

第 7 条 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。ただし、緊急その他やむを得ない理由があるときはこの限りでない。

(関係者の出席等)

第8条 委員長は、委員会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、健康福祉局において処理する。

(その他)

第10条 本要綱に定める他、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成14年1月1日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱の施行後最初の委員会の会議は、衛生局長が招集する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年5月24日から施行する。

今月のトピックス

- ┆ インフルエンザ流行警報(警報発令基準値:定点あたり 30.00)が発令されました。
- ┆ 感染性胃腸炎が再び増加しています。
- ┆ 麻しんの海外での感染事例が報告されました。

全数把握の対象

【1 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件
E 型肝炎	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	1 件
デング熱	1 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
レジオネラ症	5 件	侵襲性肺炎球菌感染症	11 件
レプトスピラ症	1 件	風しん	3 件
アメーバ赤痢	2 件	麻しん	2 件
急性脳炎	2 件		

- 1 細菌性赤痢: *Shigella flexneri*(B 群)の報告が 1 件ありました。国内での感染が推定されています。
- 2 E 型肝炎: 50 歳代の報告が 1 件ありました。国内での経口感染が推定されていますが、詳細は調査中です。推定感染地域が国内とされている症例では、多くが生肉や内臓の喫食が関連しています。ブタ、シカ、イノシシなどの肉・内臓を食べる場合には十分加熱することが大切です。E 型肝炎となった場合、致死率は、一般の人々では、0.5-4.0%ですが、妊婦の場合では、17-33%と高く、注意が必要です。
- 3 デング熱: 1 件の報告がありました。渡航先(ベトナム)での感染が推定されています。
- 4 レジオネラ症: 肺炎型 4 件、ポンティアック熱型 1 件の報告がありました。感染原因等詳細は現在調査中です。
- 5 レプトスピラ症: 1 件の報告がありました。渡航先(インドネシア)での水系感染が推定されています。
- 6 アメーバ赤痢: 2 件の報告があり、うち 1 件は腸管アメーバ症で渡航先(タイまたはハワイ)での経口感染、もう 1 件は腸管外アメーバ症(肝膿瘍)で、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 7 急性脳炎: 2 件の報告があり、1 件は乳児で病原体は現在検索中です。もう 1 件は幼児で AH1pdm09 が検出されています。
- 8 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 90 歳代男性の報告が 1 件ありました。感染原因感染経路不明です。
- 9 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者 1 件の報告があり、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 10 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 50 歳代男性 1 件(ワクチン接種歴無し)の報告がありました。肺炎が認められ、血清型は f 型でした。
- 11 侵襲性肺炎球菌感染症: 11 件の報告がありました。そのうち、乳児 1 件(ワクチン接種歴 3 回有り、血清型未検査)と 80 歳代女性(ワクチン接種歴 1 回、血清型 1 型)以外はワクチン接種歴が確認できませんでした。予防にはワクチン接種が重要です。ワクチン接種歴の無い症例の年代と血清型は、80 歳代 1 名(血清型未検査)、70 歳代 3 名(血清型 7 型、15 型、35 型)、60 歳代 2 名(血清型 19 型、24 型)、40 歳代 1 名(血清型 19 型)、30 歳代 2 名(血清型 1 型、35 型)でした。
- 12 風しん: 3 件の 30~40 歳代男性の報告があり、いずれもワクチン接種歴が確認できませんでした。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。予防接種の助成が実施されています。先天性風しん症候群の発生には、妊婦が風しんに罹患してから出産するまでの期間のずれがあるので注意が必要です。
 横浜市の風しん予防接種助成の詳細(保健所)
- 13 麻しん: 2 件の報告がありました。どちらもワクチン接種歴は無く、うち 1 件は幼児で、海外(フィリピンセブ島)での感染が推定されています。ウイルスが検出されており、遺伝子型は B3 でした。もう 1 件は乳児で、こちらもフィリピンでの感染が推定されており、現在 PCR 検査中です。海外からの感染を広げないためにも予防接種が大切です。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「麻しん検査診断アルゴリズム」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期の PCR 検査が有用です。検査については最寄りの福祉保健

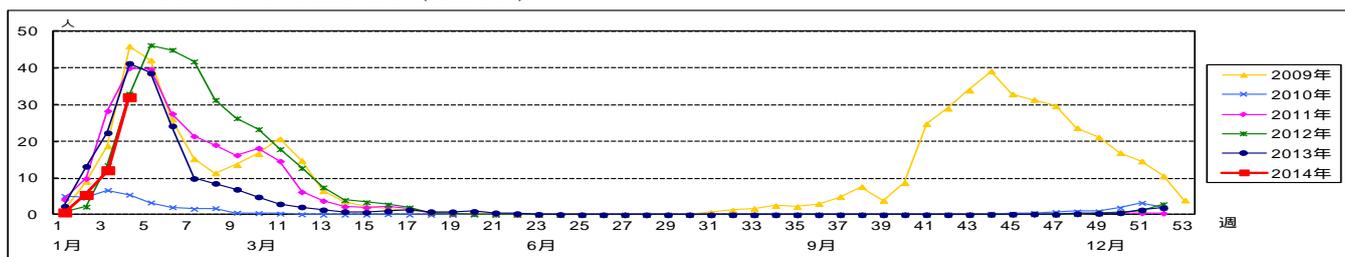
センターにご連絡ください。

定点把握の対象

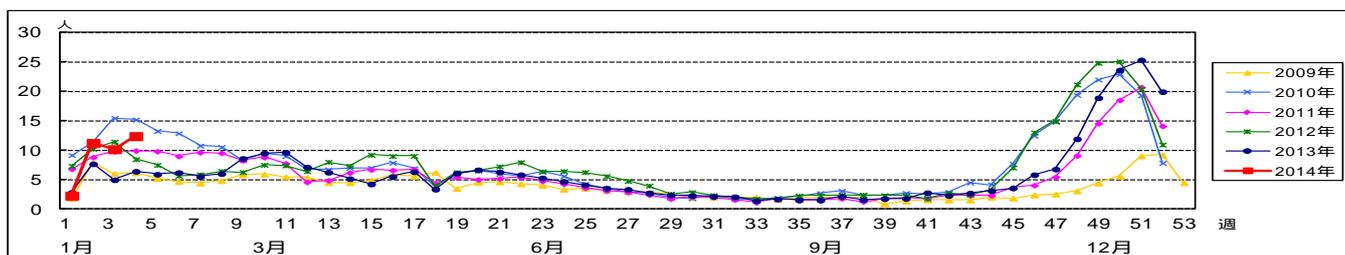
- 1 **インフルエンザ**: 第4週は市全体で定点あたり32.06と、前週の12.15から急増しました。迅速キットの結果では、第4週はA型57.8%、B型41.9%、A型B型ともに陽性0.3%となっています。今シーズン衛生研究所で検出された結果はAH1pdm09型20件(40.0%)、AH3亜型10件(20.0%)、B型(Victoria系統)10件(20.0%)、B型(山形系統)10件(20.0%)となっています。今後、さらに流行が拡大することが予想されるため、予防や早期受診などの対策が重要です。

横浜市インフルエンザ臨時情報(衛生研究所)
インフルエンザ予防チラシ(横浜市)

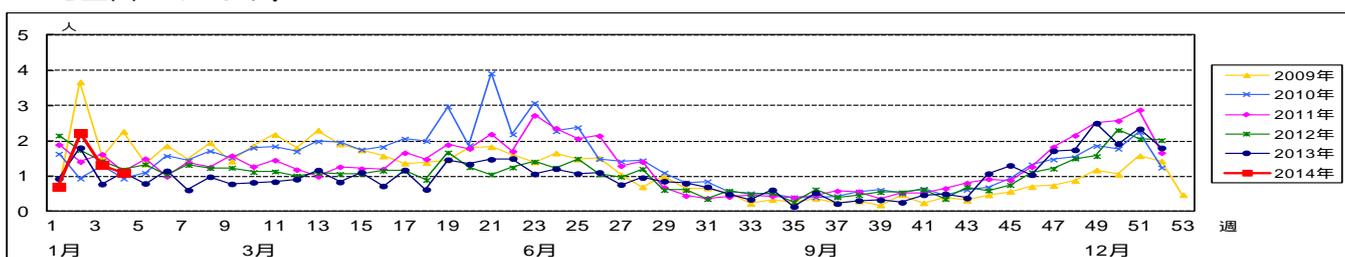
平成26年 週 - 月日対照表	
第52週	12月23～29日
第1週	12月30日～1月5日
第2週	1月6～12日
第3週	1月13～19日
第4週	1月20～26日



- 2 **感染性胃腸炎**: 今シーズンは昨年第51週に定点あたり25.38と流行のピークを迎えた後、減少傾向にありましたが、第3週10.22、第4週12.44とやや増加傾向にあります。特に、神奈川区24.40、港南区20.40では警報レベル(警報発令基準値: 定点あたり20.00以上)を上回っています。また、施設での集団感染や食中毒事例も依然として報告されており、注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸ナトリウムによる消毒が有効です。



- 3 **水痘**: 市全体で第4週1.10と落ち着いていますが、中区5.00で注意報レベル(注意報発令基準値4.00以上)を上回っています。



- 4 **性感染症**: 12月は、性器クラミジア感染症は男性が25件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が4件、女性が5件です。尖圭コンジローマは男性4件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が22件、女性が0件でした。
- 5 **基幹定点週報**: マイコプラズマ肺炎は第52週0.67、第1週0.00、第2週0.00、第3週0.00、第4週0.00となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第4週に2件報告がありました。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 **基幹定点月報**: 12月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症12件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症3件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- Ⅰ インフルエンザ(B 型が主流)が流行しています。
- Ⅰ 麻しんの海外輸入例が首都圏で増加しています。

全数把握の対象

【2 月期に報告された全数把握疾患】

レジオネラ症	1 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
アメーバ赤痢	2 件	侵襲性肺炎球菌感染症	3 件
クロイツフェルト・ヤコブ病	2 件	風しん	8 件
後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	2 件	麻しん	2 件

- 1 **レジオネラ症**:肺炎型 1 件の報告がありました。水系感染が推定されています。
- 2 **アメーバ赤痢**:2 件の報告があり、うち 1 件は腸管アメーバ症で国内での感染が推定されていますが感染経路等不明、もう 1 件は腸管外アメーバ症(肝膿瘍)で、感染経路感染地域等不明でした。
- 3 **クロイツフェルト・ヤコブ病**:2 件の古典型 CJD の報告があり、どちらも診断の確実度はほぼ確実です。
- 4 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)**:無症状病原体保有者 2 件の報告があり、どちらも同性間性的接触による感染が推定されていますが、感染地域等は不明です。
- 5 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**: 80 歳代女性 1 件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。肺炎が認められ、血清型は型別不能でした。
- 6 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 3 件(90 歳代女性、80 歳代男性、乳児)の報告がありました。そのうち、乳児 1 件(血清型検査中)はワクチン接種歴が 4 回ありましたが、90 歳代女性(血清型 6 型)と 80 歳代男性(血清型 11 型)はワクチン接種歴が確認できませんでした。予防にはワクチン接種が重要です。
- 7 **風しん**:8 件(男性 3 件、女性 5 件)の報告がありました。予防接種歴が 1 回確認されたのは女性 2 名(どちらも臨床診断例)で、他は予防接種歴が確認できませんでした。風しんは従来 2 月～3 月の早春から初夏頃が流行時期なので今後の注意が必要です。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。予防接種の助成が実施(3 月末まで)されています。先天性風しん症候群の発生には、妊婦が風しんに罹患してから出産するまでの期間のずれがあるので注意が必要です。

横浜市の風しん予防接種助成の詳細(保健所)

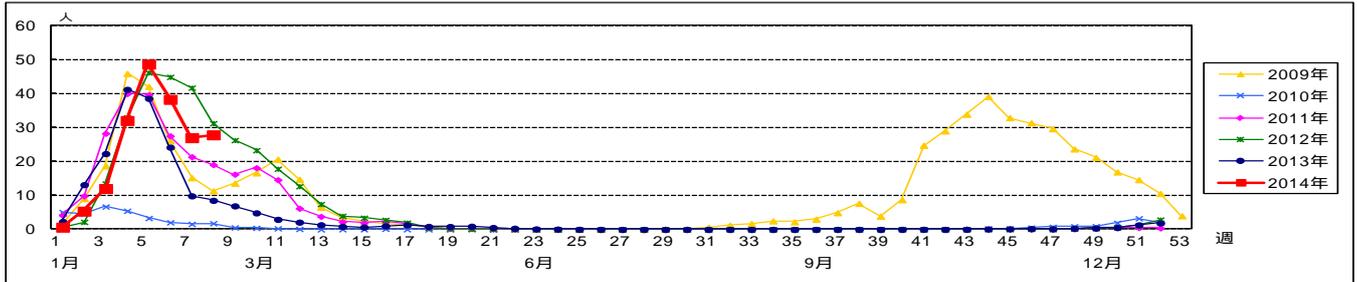
- 8 **麻しん**:2 件の報告がありました。1 件は乳児(ワクチン接種歴無し)で、海外渡航歴や海外での感染者との接触はありませんでしたが、遺伝子型で B3(海外由来の麻しんウイルスのタイプ)が検出されています。もう 1 件は 20 歳代女性(ワクチン接種歴不明)で、現在 PCR 等検査中です。現在フィリピンなどでは麻しんが流行しており、海外からの輸入例が、特に首都圏で増えています。海外渡航歴や海外の人との接触が考えられる患者の診察では留意が必要です。さらに、国内発生の事例では、本人の気づかないところで海外からの輸入例と接触し、感染したことが疑われる事例が報告されているので注意が必要です(参考:麻しん臨時情報)。麻しんの予防には 2 回の予防接種が必要です。定期予防接種(1 回目:1 歳以上 2 歳未満、2 回目:5 歳から 7 歳未満で小学校就学前 1 年間で、麻しん・風しん混合ワクチン(MR ワクチン)を確実に接種しましょう。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「麻しん検査診断アルゴリズム」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期の PCR 検査が有用です。検査については最寄りの福祉保健センターにご連絡ください。

定点把握の対象

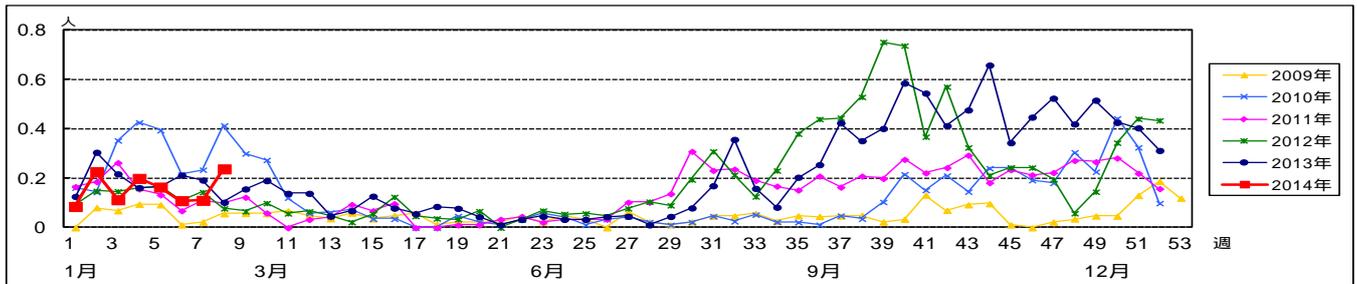
- 1 **インフルエンザ**:市全体の定点あたりの患者報告数は、第 5 週の 48.74 をピークに減少を続けていましたが、第 8 週は 27.90 と、前週の 27.05 からやや上昇に転じました。迅速キット結果報告では B 型が増加しており、その影響と考えられます。衛生研究所で検出した結果では、B 型(山形系統)が多く検出されています。また、衛生研究所で AH1pdm09 型の 61 株を検査したところ、耐性ミックス株(275H/Y)(注:薬剤治療中または治療後の患者の検体からは、薬剤により耐性が誘導された株と通常の株がミックスされたもの(耐性ミックス株)が検出されることがあります。通常はそのウイルスが地域で流行することはありません。最近話題になっている耐性株とは異なります。)が 3 株見つっていますが、耐性株(275Y)は見つかりません。

平成 26 年 週 - 月日対照表	
第 5 週	1 月 27 日 ~ 2 月 2 日
第 6 週	2 月 3 日 ~ 9 日
第 7 週	2 月 10 日 ~ 16 日
第 8 週	2 月 17 日 ~ 23 日

横浜市インフルエンザ臨時情報(衛生研究所)
インフルエンザ予防チラシ(横浜市)

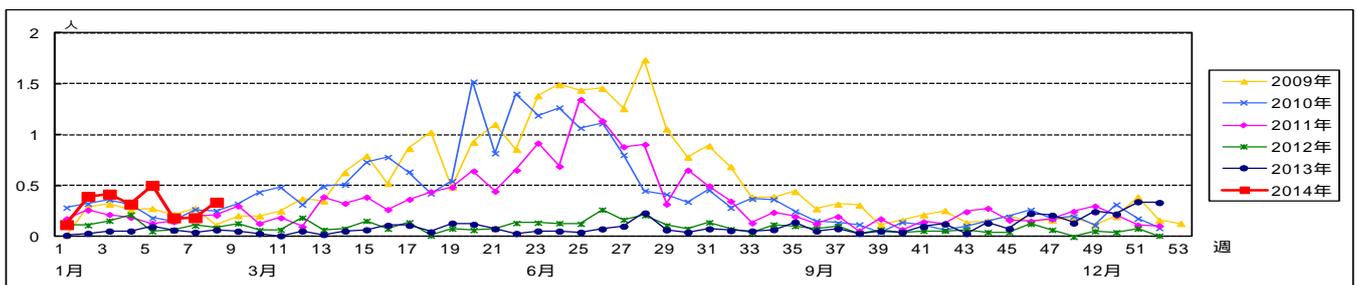


- 2 **RS ウイルス感染症**:第 8 週は定点あたり 0.24 と、例年に比べ時期としては報告数が多くなっています。



- 3 **伝染性紅斑**:第 8 週は定点あたり 0.34 と、例年に比べ時期としては報告数が多くなっています。中区では 2.00 と、警報レベルとなっています。伝染性紅斑は典型的なヒトパルボウイルス B19(以下 B19)感染症の臨床像です。B19 感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常(胎児水腫)および流産があります。

伝染性紅斑について(国立感染症研究所)



- 4 **性感染症**:1 月は、性器クラミジア感染症は男性が 26 件、女性が 7 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 8 件、女性が 10 件です。尖圭コンジローマは男性 6 件、女性が 3 件でした。淋菌感染症は男性が 14 件、女性が 2 件でした。
- 5 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は第 5 週 0.00、第 6 週 0.50、第 7 週 0.25、第 8 週 0.00 と落ち着いています。感染性胃腸炎、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 **基幹定点月報**:1 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 4 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- Ⅰ インフルエンザは減少傾向ですが、警報解除基準値(定点あたり 10.00)を依然として上回っています。
- Ⅰ 麻しんの海外輸入例が首都圏で増加しています。
- Ⅰ A 型肝炎の報告が増加しています。

全数把握の対象

【3 月期に報告された全数把握疾患】

A 型肝炎	2 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	5 件
アメーバ赤痢	2 件	侵襲性肺炎球菌感染症	8 件
急性脳炎	1 件	風しん	1 件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件	麻しん	1 件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件		

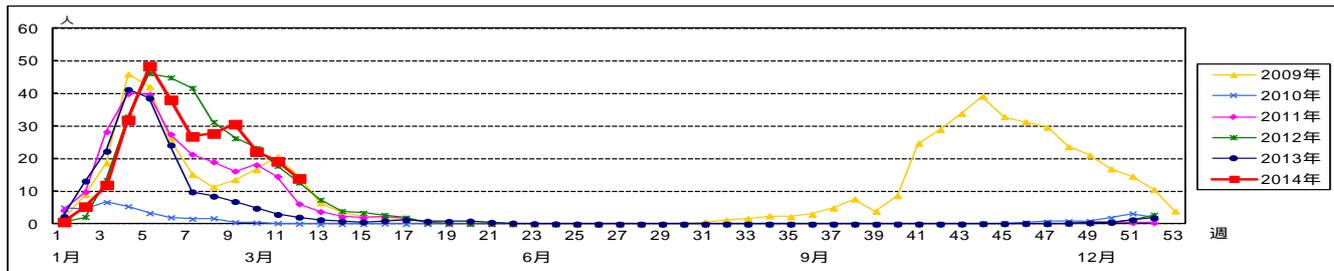
- 1 **A 型肝炎**: 2 件の報告がありました。どちらも経口感染が推定されており、直近の海外渡航歴はありませんでした。全国的に A 型肝炎の報告が増加しており、厚生労働省から注意喚起の事務連絡が出されています。報告の 7 割程は国内が推定または確定感染地域とされています(IDWR 2014 年第 7 号 <注目すべき感染症> 2014 年の A 型肝炎の増加)。国内での感染経路としては、魚介類の生食などによる経口感染や、性的接触などが報告されています。市内でも昨年は 4 件の報告でしたが、今年は既に 5 件報告(すべて直近の渡航歴は確認できていません。)されており、注意が必要です。
- 2 **アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症 2 件の報告があり、1 件は国内での感染が推定されていますが感染経路等不明、もう 1 件は感染経路感染地域等不明でした。
- 3 **急性脳炎**: 1 件の学童の報告があり、インフルエンザ AH1pdm09 が検出されています。
- 4 **クロイツフェルト・ヤコブ病**: 1 件の古典型 CJD の報告があり、診断の確実度はほぼ確実です。
- 5 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 30 歳代女性の報告が 1 件あり、血清型は A 群でした。感染原因感染経路は不明です。
- 6 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)**: 無症状病原体保有者 3 件、AIDS 2 件の報告がありました。無症状病原体保有者では、2 件が国内での同性間性的接触による感染が推定されており、もう 1 件は感染経路感染地域等不明でした。AIDS では、1 件が HIV 消耗性症候群を認め、国内での異性間性的接触による感染が推定されており、もう 1 件はカンジダ症(食道)、サイトメガロウイルス感染症と HIV 脳症を認め、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 7 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 8 件(幼児 1 件、成人 7 件)の報告がありました。そのうち、幼児 1 件(血清型 33 型)はワクチン接種歴が 3 回ありましたが、成人例 6 件(血清型 19 型 2 件、15 型、7 型、6 型、3 型、型別不能型それぞれ 1 件)ではワクチン接種歴が確認できませんでした。予防にはワクチン接種が重要です。
- 8 **風しん**: 男性 1 件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。風しんは従来 2 月～3 月の早春から初夏頃が流行時期なので今後の注意が必要です。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。先天性風しん症候群の発生には、妊婦が風しんに罹患してから出産するまでの期間のずれがあるので注意が必要です。
- 9 **麻しん**: 1 件の報告がありました。30 歳代女性で遺伝子型 D9(海外由来の麻しんウイルスのタイプ)が検出されていますが、海外渡航歴はありませんでした。現在フィリピンなどでは麻しんが流行しており、海外からの輸入例が、特に首都圏で増えています。海外渡航歴や海外の人との接触が考えられる患者の診察では留意が必要です。さらに、国内発生の事例では、本人の気づかないところで海外からの輸入例と接触し、感染したことが疑われる事例が報告されているので注意が必要です(参考:麻しん臨時情報)。麻しんの予防には 2 回の予防接種が必要です。定期予防接種(1 回目:1 歳以上 2 歳未満、2 回目:5 歳から 7 歳未満で小学校就学前 1 年間)で、麻しん・風しん混合ワクチン(MR ワクチン)を確実に接種しましょう。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「麻しん検査診断アルゴリズム」をご参照ください。また、診断の確定には適切

な時期の PCR 検査が有用です。検査については最寄りの福祉保健センターにご連絡ください。

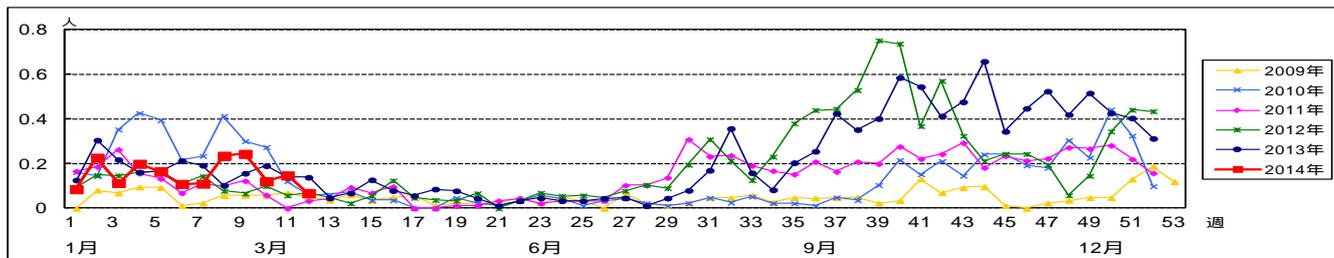
定点把握の対象

- 1 **インフルエンザ**:市全体の定点あたりの患者報告数は減少傾向で、第12週は14.01となりましたが、まだ警報解除基準値(10.00)を上回っています。第12週にはAH1pdm09型による急性脳症が報告されており、まだ注意が必要です。迅速キット結果報告ではB型が9割近くを占めていますが、衛生研究所で検出した結果では山形系統が多く検出されています。また、衛生研究所でAH1pdm09型の76株を検査したところ、耐性株(275Y)が1株みつかりました。北海道で地域流行していた株との関連については現在検査中です。
- 横浜市インフルエンザ臨時情報(衛生研究所)
インフルエンザ予防チラシ(横浜市)

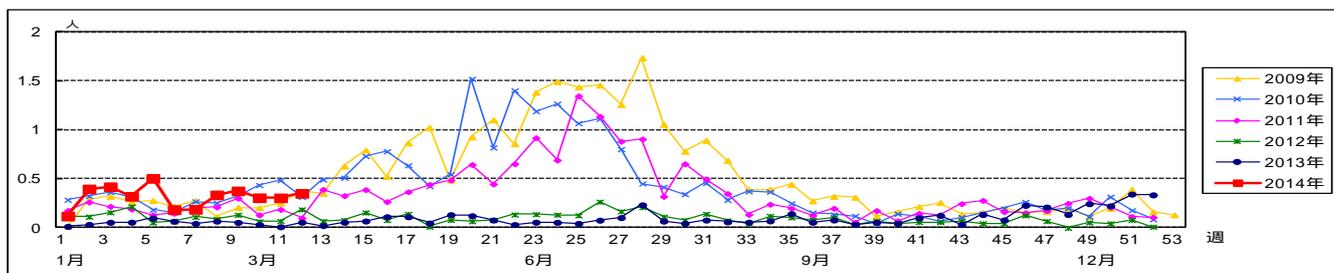
平成26年 週 - 月日対照表	
第9週	2月24日～3月2日
第10週	3月3日～9日
第11週	3月10日～16日
第12週	3月17日～23日



- 2 **RSウイルス感染症**:第12週は定点あたり0.07と、報告は落ち着いています。



- 3 **伝染性紅斑**:第12週は定点あたり0.35と、例年に比べ時期としては報告数が多くなっています。伝染性紅斑は典型的なヒトパルボウイルスB19(以下B19)感染症の臨床像です。B19感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常(胎児水腫)および流産があります。
- 伝染性紅斑について(国立感染症研究所)



- 4 **性感染症**:2月は、性器クラミジア感染症は男性が16件、女性が7件でした。性器ヘルペス感染症は男性が4件、女性が6件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が0件でした。淋菌感染症は男性が23件、女性が0件でした。
- 5 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は第9週0.25、第10週0.25、第11週0.75、第12週0.00と落ち着いています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第9週0.50、第10週0.00、第11週0.75、第12週0.00となっています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 **基幹定点月報**:2月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症3件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症1件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- Ⅰ 麻しんの報告が続いています。
- Ⅰ 伝染性紅斑の報告が増加しています。

全数把握の対象

【4 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	2 件	後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	2 件
マラリア	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	1 件
アメーバ赤痢	3 件	梅毒	3 件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件	麻しん	2 件

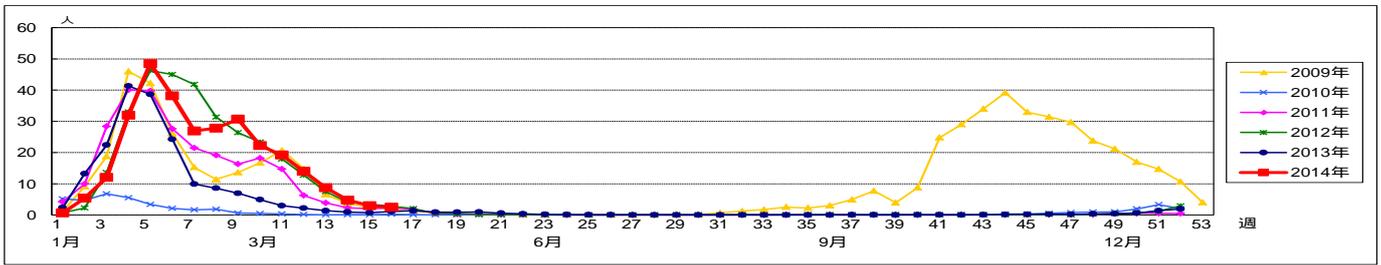
- 1 腸管出血性大腸菌感染症: 2 件(いずれも O157 VT1VT2)の報告がありました。1 件は広域に発生している同じ畜産会社の馬刺しの喫食が原因でした。もう 1 件は感染経路等調査中です。本症は例年夏季にむけて感染者数のピークを迎えるため、今後の注意が必要です。特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあります。通常、菌は家畜の腸内に存在し、新鮮な肉を購入しても表面に菌が付着している可能性があり、生肉を切った包丁やまな板の洗浄・消毒や、焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策が重要です。また菌は熱に弱いので、肉は十分に加熱(中心部まで 75 で 1 分間以上加熱)し、生肉や加熱が不十分な肉を食べないことが大切です。
- 2 マラリア: 1 件の卵形マラリアの報告があり、渡航先(ガーナ)での感染が推定されています。マラリアは、熱帯熱、三日熱、卵形、四日熱の 4 種類に分かれます。マラリアに免疫のないヒトが初感染した場合、発熱はほぼ必発で、原虫侵入後の潜伏期は熱帯熱マラリアで 12 日前後、四日熱マラリアは 30 日前後、三日熱マラリアと卵形マラリアでは 14 日前後です。
- 3 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 2 件と腸管外アメーバ症(肝膿瘍)1 件の報告がありました。腸管アメーバ症の 1 件は国内での同性間性的接触による感染、他の 2 件は国内での感染が推定されていますが感染経路等不明でした。
- 4 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 70 歳代男性の報告が 1 件あり、血清型は G 群でした。創傷感染が推定されています。
- 5 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者 2 件(無症候性キャリア 1 件とその他(急性 HIV 感染症)1 件)の報告がありました。無症候性キャリアは国内での同性間性的接触による感染、その他は国内での感染が推定されていますが、感染経路等不明でした。なお、HIV 感染症の初期症状である発熱、頭痛、咽頭痛などを呈する急性 HIV 感染症は、感染症法による届出のうち、1)無症候性キャリア、2)AIDS、3)その他、のうち 3)その他、に該当します。
- 6 侵襲性肺炎球菌感染症: 70 歳代の報告が 1 件(血清型 7 型)ありました。ワクチン接種歴は 2 回有りました。血清型のサブタイプは現在国立感染症研究所で精査中です。
- 7 梅毒: 3 件の報告があり、1 件は早期顕症 期(咽頭乳白斑)で、国内での異性間性的接触(経口)による感染が推定されており、残る 2 件は早期顕症 期(初期硬結、鼠径部リンパ節腫脹)で、どちらも国内での異性間性的接触(1 件は経口、もう 1 件は性交)による感染が推定されています。
- 8 麻しん: 2 件の報告がありました。1 件は幼児で予防接種歴無し。PCR 陽性で、遺伝子型は B3 です。もう 1 件は 50 歳代男性で予防接種歴不明で臨床診断例です。現在 PCR 検査等精査中です。全国的に麻しんの報告が増加しており、既に今年も昨年の報告数を超えています。現在フィリピンなどでは麻しんが流行しており、海外からの輸入例が、特に首都圏で増えています。海外渡航歴や海外の人との接触が考えられる患者の診察では留意が必要です。さらに、国内発生の事例では、本人の気づかないところで海外からの輸入例と接触し、感染したことが疑われる事例が報告されているので注意が必要です。また、職場内での感染も報告されています(参考:麻しん臨時情報)。麻しんの予防には 2 回の予防接種が必要です。定期予防接種(1 回目: 1 歳以上 2 歳未満、2 回目: 5 歳から 7 歳未満で小学校就学前 1 年間で、麻しん・風しん混合ワクチン(MR ワクチン)を確実に接種しましょう。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「麻しん検査診断アルゴリズム」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期の PCR 検査が有用です。検査については

最寄りの福祉保健センターにご連絡ください。

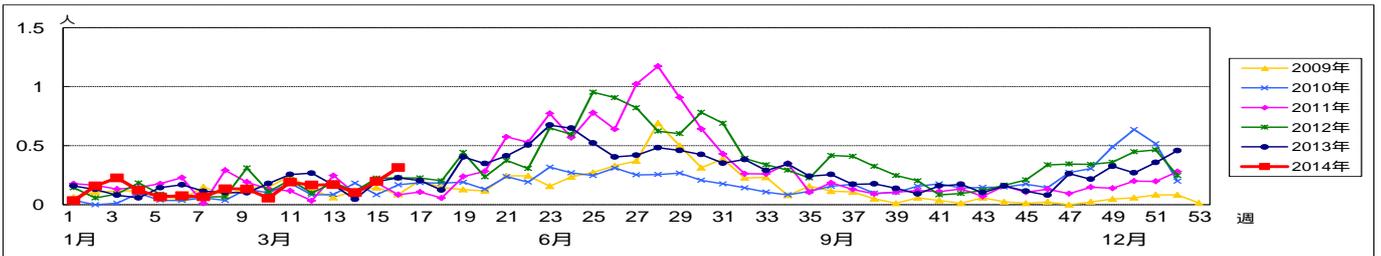
平成 26 年 週 - 月日対照表	
第 13 週	3 月 24 日 ~ 3 月 30 日
第 14 週	3 月 31 日 ~ 4 月 6 日
第 15 週	4 月 7 日 ~ 13 日
第 16 週	4 月 14 日 ~ 20 日

定点把握の対象

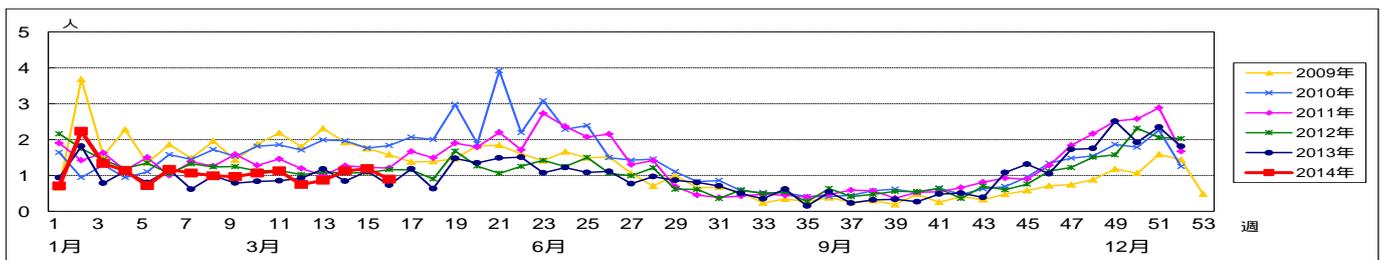
- 1 **インフルエンザ**: 市全体の定点あたりの患者報告数は引き続き減少傾向で、第 16 週は 2.46 です。ただ、第 16 週にも小学校での学級閉鎖が 1 件報告されており、もう少し注意が必要です。



- 2 **咽頭結膜熱**: 第 16 週は市全体で定点あたり 0.31 と、やや報告が増加しています。

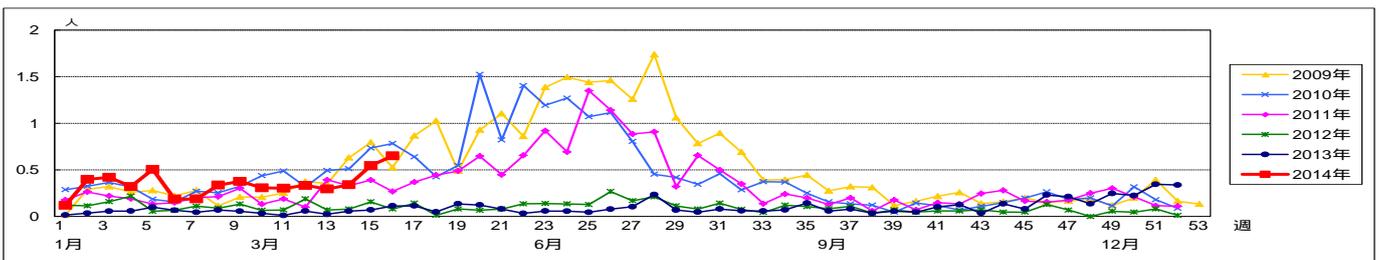


- 3 **水痘**: 第 16 週は中区で定点あたり 5.33 と注意報レベルですが、市全体では 0.90 と落ち着いています。



- 4 **伝染性紅斑**: 第 16 週は市全体で定点あたり 0.65 と、報告数が多くなっています。伝染性紅斑は典型的なヒトパルボウイルス B19(以下 B19) 感染症の臨床像です。B19 感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常(胎児水腫)および流産があります。

伝染性紅斑について(国立感染症研究所)



- 5 **性感染症**: 3 月は、性器クラミジア感染症は男性が 23 件、女性が 7 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 6 件、女性が 6 件です。尖圭コンジローマは男性 9 件、女性が 3 件でした。淋菌感染症は男性が 10 件、女性が 1 件でした。

- 6 **基幹定点週報**: マイコプラズマ肺炎は第 13 週 0.50、第 14 週 0.33、第 15 週 0.00、第 16 週 0.00 と落ち着いています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第 13 週 0.25、第 14 週 0.00、第 15 週 0.33、第 16 週 1.50 と報告が多くなっています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

- 7 **基幹定点月報**: 3 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 1 件報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- ┆ 伝染性紅斑が 2011 年以来の流行となっています。
- ┆ 梅毒の報告が近年増加しています。
- ┆ ロタウイルスによる感染性胃腸炎の報告が増加しています。

全数把握の対象

【5 月期に報告された全数把握疾患】

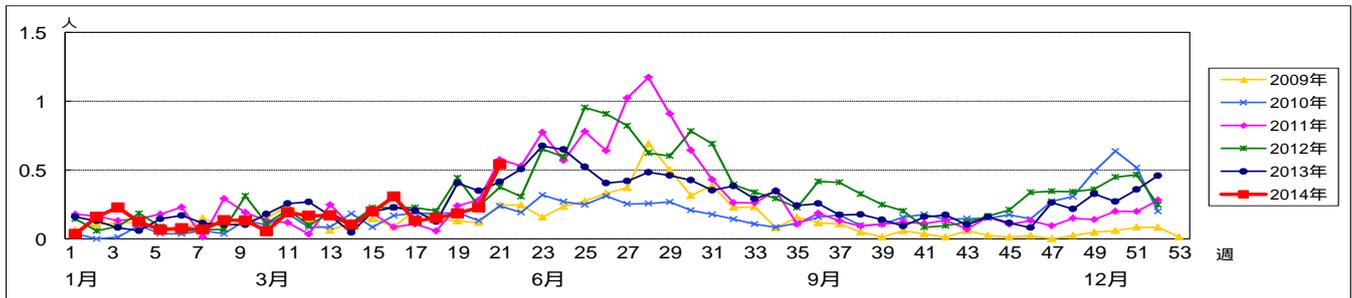
腸管出血性大腸菌感染症	1 件	後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	2 件
A 型肝炎	1 件	侵襲性肺炎球菌感染症	6 件
デング熱	1 件	梅毒	3 件
レジオネラ症	2 件	風しん	2 件
アメーバ赤痢	5 件		

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**: O26 VT1 の報告が 1 件ありました。感染経路感染地域等不明です。本症は例年夏季にむけて感染者数のピークを迎えるため、今後の注意が必要です。特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあります。通常、菌は家畜の腸内に存在しますが、新鮮な肉を購入しても表面に菌が付着している可能性があり、生肉を切った包丁やまな板の洗浄・消毒や、焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策が重要です。また菌は熱に弱いので、肉は十分に加熱(中心部まで 75 で 1 分間以上加熱)し、生肉や加熱が不十分な肉を食べないことが大切です。
- 2 **A 型肝炎**: 1 件の報告があり、経口感染が推定されています。
- 3 **デング熱**: 1 件のデング熱の報告があり、渡航先(マレーシア)での感染が推定されています。
- 4 **レジオネラ症**: 肺炎型 2 件の報告がありました。1 件は国内での水系感染が推定(現在調査中)されており、もう 1 件は感染経路等不明です。
- 5 **アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症 4 件と、腸管及び腸管外アメーバ症(肝膿瘍) 1 件の報告がありました。腸管アメーバ症の 1 件は国内での経口感染、もう 1 件は国内での感染で感染経路等不明、もう 1 件は中国での感染で感染経路等不明、残るもう 1 件は感染経路感染地域等不明でした。腸管及び腸管外アメーバ症の 1 件は経口感染が推定されていますが感染地域等不明でした。
- 6 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)**: 無症状病原体保有者 2 件の報告がありました。どちらも国内での感染が推定されており、1 件は同性間、もう 1 件は異性間の性的接触による感染が推定されています。
- 7 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 70 歳代の報告が 5 件(血清型 7 型 1 件、22 型 2 件、他は検査中)、30 歳代の報告(咽頭炎で初発し、髄膜炎発症。基礎疾患無し。)が 1 件(血清型検査中)ありました。すべての報告でワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 8 **梅毒**: 3 件の報告があり、1 件は早期顕症 期(丘疹性梅毒疹)で、感染経路感染地域等不明でした。残る 2 件は無症候期で、1 件は国内での性的接触、もう 1 件は感染経路感染地域等不明でした。国立感染症研究所の報告によると、梅毒は近年全国的に増加しており、特に男性の 25~29 歳で多くなっています。また、男性の 90%近くが性的接触による感染で、男性の同性間性的接触による感染が増加しています。横浜市でも 2011 年 9 件、2012 年 15 件、2013 年 28 件と増加傾向です。感染経路の大部分は、菌を排出している患者との粘膜の接触を伴う性行為や疑似性行為によるもので、オーラルセックスによる感染の危険性があまり知られていないこともあり注意が必要です。また、感染した妊婦の胎盤を通じて胎児に感染すると、先天梅毒の原因になります。
- 9 **風しん**: 2 件の報告があり、どちらも臨床診断例です。1 件は幼児で予防接種歴 2 回有り、もう 1 件は 10 歳代で予防接種歴はありませんでした。

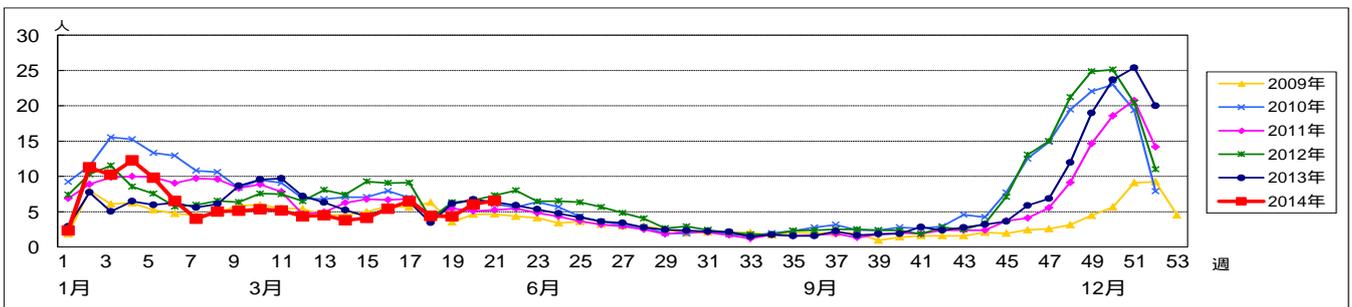
定点把握の対象

平成 26 年 週 - 月日対照表	
第 17 週	4 月 21 日 ~ 27 日
第 18 週	4 月 28 日 ~ 5 月 4 日
第 19 週	5 月 5 日 ~ 11 日
第 20 週	5 月 12 日 ~ 18 日
第 21 週	5 月 19 日 ~ 25 日

- 1 **咽頭結膜熱**: 第 21 週は市全体で定点あたり 0.54 と、やや報告が増加していますが、警報発令基準値(定点あたり 3.00)は大きく下回っています。

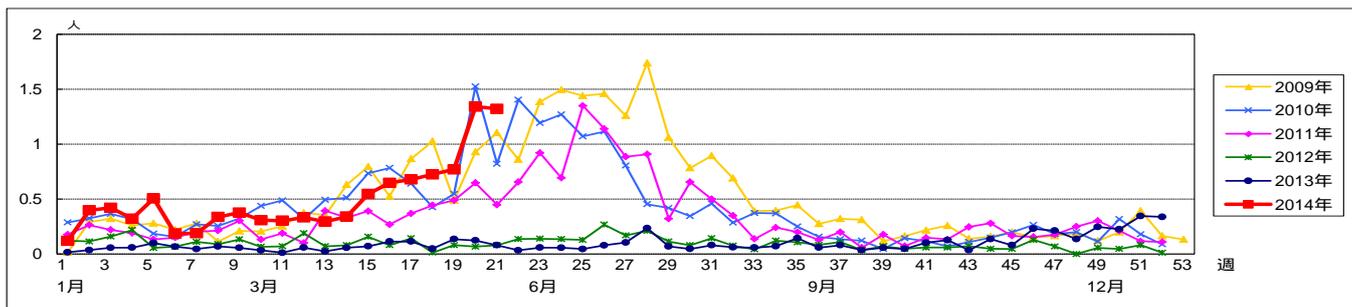


- 2 **感染性胃腸炎**: 第 21 週は市全体で定点あたり 6.55 と落ち着いており、ほぼ例年同様の報告数です。基幹定点からの報告ではロタウイルスによる感染性胃腸炎が増加しています。



- 3 **伝染性紅斑**: 第 21 週は市全体で定点あたり 1.32 と、報告数が増えており、2011 年以來の流行となっています。流行の中心は 4~5 歳の幼児です。区別では、神奈川区(4.83)、都筑区(4.75)、青葉区(2.86)、緑区(2.75)、瀬谷区(2.25)と 5 区で警報発令基準値(2.00)を上回っています。伝染性紅斑は典型的なヒトパルボウイルス B19(以下 B19)感染症の臨床像です。B19 感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常(胎児水腫)および流産があります。

伝染性紅斑について(国立感染症研究所)
横浜市感染症臨時情報: 伝染性紅斑



- 4 **性感染症**: 4 月は、性器クラミジア感染症は男性が 33 件、女性が 16 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 5 件、女性が 7 件です。尖圭コンジローマは男性 3 件、女性が 0 件でした。淋菌感染症は男性が 14 件、女性が 0 件でした。
- 5 **基幹定点週報**: マイコプラズマ肺炎は第 17 週 0.25 の他、第 18 週~第 21 週にかけては報告がありませんでした。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第 17 週 0.75、第 18 週 0.50、第 19 週 1.00、第 20 週 1.00、第 21 週 0.33 と報告が多くなっています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 **基幹定点月報**: 4 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 4 件、薬剤耐性緑膿菌感染症 1 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- ┆ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が増えています。
- ┆ 市外で麻しんに感染し、さらに家庭内で感染が広がった事例が報告されています。
- ┆ 伝染性紅斑が 2011 年以来の流行となっています。
- ┆ インフルエンザの報告が散見されています。

全数把握の対象

【6 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	9 件	侵襲性肺炎球菌感染症	5 件
A 型肝炎	1 件	梅毒	2 件
レジオネラ症	1 件	風しん	2 件
アメーバ赤痢	1 件	麻しん	2 件
後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	1 件		

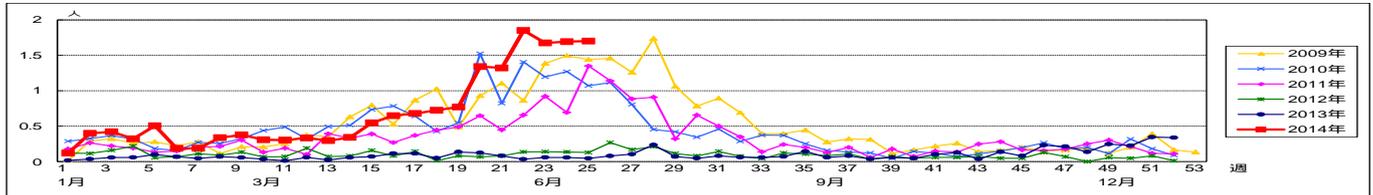
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**: O157VT1VT2 の報告が 8 件、O26VT1 の報告が 1 件ありました。原因については現在調査中です。本症は例年夏季にむけて感染者数のピークを迎えるため、今後の注意が必要です。特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあります。通常、菌は家畜の腸内に存在しますが、新鮮な肉を購入しても表面に菌が付着している可能性があり、生肉を切った包丁やまな板の洗浄・消毒や、焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策が重要です。また菌は熱に弱いので、肉は十分に加熱(中心部まで 75℃ で 1 分間以上加熱)し、生肉や加熱が不十分な肉を食べないことが大切です。また、国立感染症研究所の報告によると、昨年の菌陽性者が 10 人以上発生した集団感染 22 事例中 19 事例が保育施設における人から人への感染が拡大原因でした。2 次感染予防のためには手洗い、適切なおむつ交換、プールでの感染防止対策の徹底や、遊具など共用する物の清掃および消毒が重要です。
- 2 **A 型肝炎**: 1 件の報告 (A 型) があり、経口感染が推定されています。
- 3 **レジオネラ症**: 肺炎型 1 件の報告があり、現在感染経路等調査中です。
- 4 **アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症 1 件の報告があり、感染経路感染地域等不明でした。
- 5 **後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)**: 無症状病原体保有者 1 件の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 6 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 60 ~ 80 歳代の報告 (いずれも予防接種歴確認できず。) が 4 件、幼児の報告 (予防接種歴 4 回有り。) が 1 件ありました。
- 7 **梅毒**: 2 件の報告があり、1 件は早期顕症 期 (梅毒性バラ疹、丘疹性梅毒疹、扁平コンジローマ) で、異性間性的接触による感染、もう 1 件は無症候期で同性間性的接触による感染が推定されています。どちらも感染地域等不明でした。梅毒は近年全国的に増加しており、特に男性の 25 ~ 29 歳で多くなっています。オーラルセックスによる感染の危険性があまり知られていないこともあり注意が必要です。また、感染した妊婦の胎盤を通じて胎児に感染すると、先天梅毒の原因になります。
- 8 **風しん**: 学童の臨床診断例の報告が 2 件あり、1 件は予防接種歴が 1 回あり、もう 1 件はありませんでした。
- 9 **麻しん**: 2 件の報告がありました。1 件 (D8) は学童で兄 (市外学校での感染が推定されています。) からの感染が推定されています。もう 1 件 (D8) は 30 歳代で市外の職場の同僚からの感染が推定されています。どちらもワクチン接種歴は確認できませんでした。全国的に麻しんの報告が増加しており、海外からの輸入例から周囲に広まるケースが散見されます。海外渡航歴および海外の人との接触の有無や、職場や学校での流行状況などの問診が重要です。麻しんの予防には 2 回の予防接種が必要です。定期予防接種 (1 回目: 1 歳以上 2 歳未満、2 回目: 5 歳から 7 歳未満で小学校就学前 1 年間で、麻しん・風しん混合ワクチン (MR ワクチン) を確実に接種しましょう。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「麻しん検査診断アルゴリズム」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期の PCR 検査が有用です。検査については健康安全課 (671-2463) にご連絡ください。

定点把握の対象

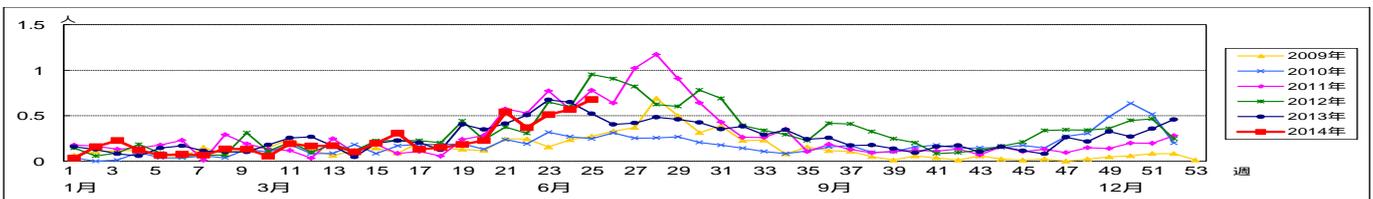
平成 26 年 週 - 月日対照表	
第 22 週	5 月 26 日 ~ 6 月 1 日
第 23 週	6 月 2 日 ~ 8 日
第 24 週	6 月 9 日 ~ 15 日
第 25 週	6 月 16 日 ~ 22 日

- 1 **伝染性紅斑**: 第 25 週は市全体で定点あたり 1.70 と、過去 6 年間の同時期と比べて報告が最も多くなっています。伝染性紅斑は典型的なヒトパルボウイルス B19(以下 B19)感染症の臨床像です。B19 感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常(胎児水腫)および流産があります。

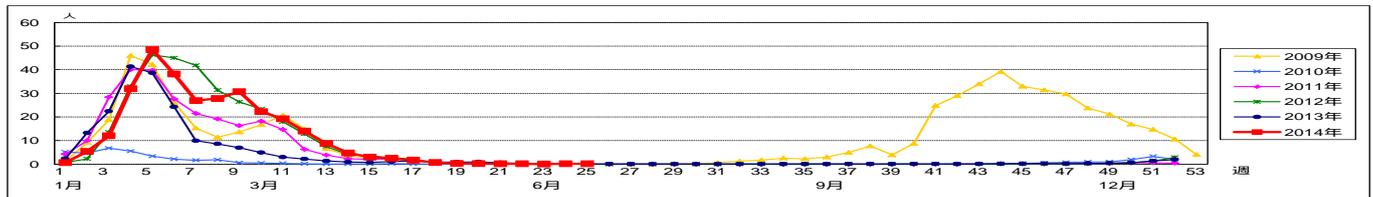
伝染性紅斑について(国立感染症研究所)
横浜市感染症臨時情報:伝染性紅斑



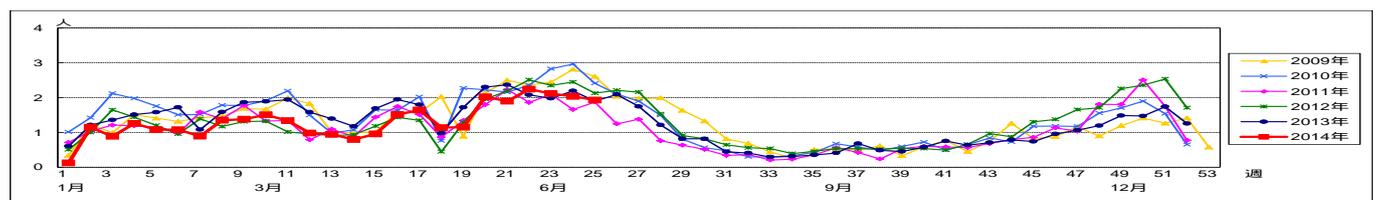
- 2 **咽頭結膜熱**: 第 25 週は市全体で定点あたり 0.68 と、報告が増加傾向ですが、警報発令基準値(定点あたり 3.00)は大きく下回っています。



- 3 **インフルエンザ**: 第 25 週は市全体で定点あたり 0.15 と落ち着いています。都筑区 2.80、瀬谷区 0.50 と報告が増加している区が見られます。報告のあった迅速キット結果の集計では、A 型 94.7%、B 型 5.3%でした。定点医療機関以外でもインフルエンザ患者が発生しているという報告もあり、注意が必要です。



- 4 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 第 25 週は市全体で定点あたり 1.93 と、例年の同時期と同様にやや報告が多くなっています。



- 5 **性感染症**: 5 月は、性器クラミジア感染症は男性が 22 件、女性が 7 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 5 件、女性が 12 件です。尖圭コンジローマは男性 5 件、女性が 2 件でした。淋菌感染症は男性が 21 件、女性が 1 件でした。
- 6 **基幹定点週報**: マイコプラズマ肺炎は第 22 週 0.00、第 23 週 0.75、第 24 週 0.25、第 25 週 0.00 と落ち着いています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第 22 週 0.00、第 23 週 0.25、第 24 週 0.25、第 25 週 0.00 と落ち着いています。クラミジア肺炎は第 22 週に 1 件報告がありました。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎の報告はありませんでした。
- 7 **基幹定点月報**: 5 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 8 件、薬剤耐性緑膿菌感染症 1 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

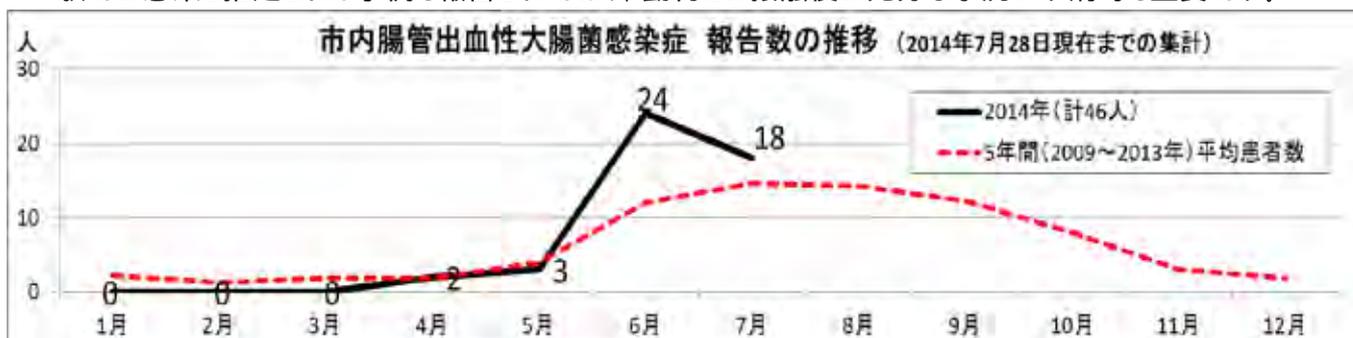
- ┆ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が増えています。
- ┆ 伝染性紅斑が流行しています。
- ┆ ヘルパンギーナが流行しています。

全数把握の対象

【7 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	18 件	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 件
レジオネラ症	6 件	侵襲性肺炎球菌感染症	2 件
アメーバ赤痢	6 件	梅毒	2 件
後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	4 件	風しん	1 件
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件		

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**: 計 18 件 (O157VT1VT2 10 件、O157VT1 1 件、O157VT2 3 件、O157VT 型不明 1 件、O111VT1VT2 2 件、O121VT2 1 件) の報告がありました。原因については現在調査中ですが、いくつかの事例では家族内での 2 次感染が見られています。本症の今年の報告数は、6 月は過去 5 年間の平均を上回り、7 月も 7 月 28 日現在の集計時点で上回っています。過去 5 年間の推移によると、8 月から 9 月にかけても報告数が多いことが考えられ注意が必要です。特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあります。家庭内での 2 次感染予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気スイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。全国的には毎年保育施設における集団発生が多くみられており、オムツ交換時の手洗い、園児に対する排便後・食事前の手洗い指導の徹底が重要です。また、簡易プールなどの衛生管理にも注意を払う必要があります。さらに、過去には動物とのふれあい体験での感染と推定される事例も報告されており、動物との接触後の十分な手洗いや消毒も重要です。



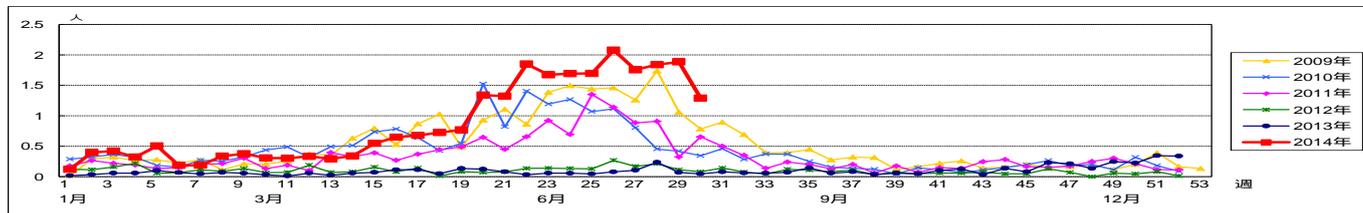
- 2 **レジオネラ症**: 肺炎型 6 件の報告があり、現在感染経路等調査中です。
- 3 **アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症 6 件 (経口感染 2 件、同性間性的接触による感染 1 件、異性間性的接触による感染 1 件、感染経路等不明 2 件) の報告がありました。
- 4 **後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)**: AIDS 3 件、無症状病原体保有者 1 件の報告がありました。そのうち、異性間性的接触による感染が 3 件、同性間性的接触による感染が 1 件でした。
- 5 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**: 90 歳代の報告が 1 件ありました。
- 6 **侵襲性髄膜炎菌感染症**: 70 歳代の報告が 1 件ありました。患者は集団生活はしておらず、周囲に他の患者は確認されませんでした。
- 7 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 70 歳代の報告が 2 件あり、いずれも予防接種歴は不明でした。
- 8 **梅毒**: 無症候期の報告が 2 件あり、1 件は同性間性的接触による感染が推定され、もう 1 件は感染経路等不明でした。
- 9 **風しん**: 30 歳代女性の検査診断例の報告が 1 件あり、予防接種歴は不明でした。

定点把握の対象

平成 26 年 週 - 月日対照表	
第 26 週	6 月 23 日 ~ 29 日
第 27 週	6 月 30 日 ~ 7 月 6 日
第 28 週	7 月 7 日 ~ 13 日
第 29 週	7 月 14 日 ~ 20 日
第 30 週	7 月 21 日 ~ 27 日

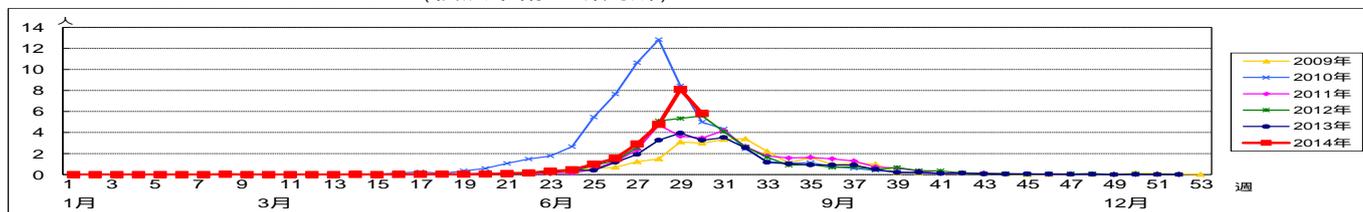
- 1 **伝染性紅斑**: 第 26 週に市全体で定点あたり 2.08 と警報発令基準値 (2.00) を上回って以降、警報レベル (警報解除基準値 1.00) が継続しています。ただ、第 30 週は 1.29 と減少傾向に転じました。区別では 9 区で警報レベルとなっています。

伝染性紅斑について (国立感染症研究所)
横浜市感染症臨時情報: 伝染性紅斑

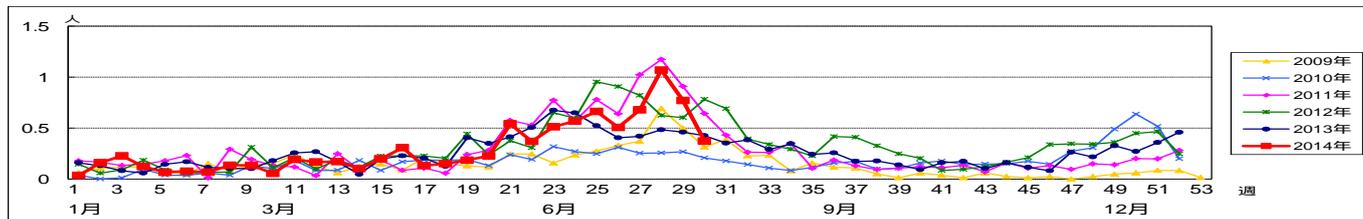


- 2 **ヘルパンギーナ**: 第 27 週から急激に報告が増加し、第 29 週は 8.10 と警報発令基準値 (6.00) を上回りました。第 30 週は 5.81 と減少に転じましたが、警報レベル (警報解除基準値 2.00) が継続しています。区別では 10 区で警報レベルとなっています。感染予防では、患者との密接な接触を避け、流行時にうがいや手洗いをしっかりと行うことが重要です。特に患児のおむつを替えた後などは、よく手を洗いましょう。

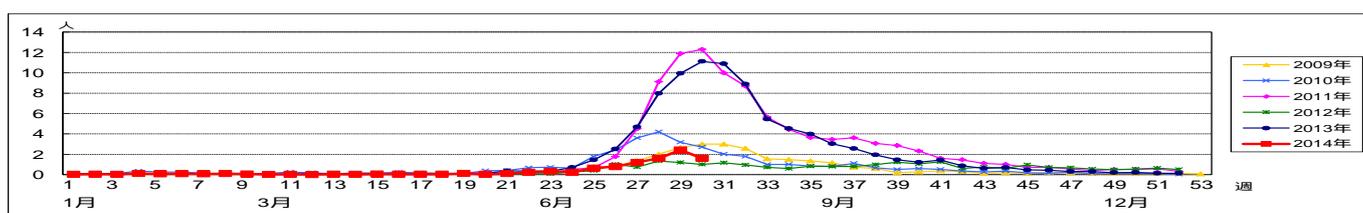
ヘルパンギーナについて (横浜市衛生研究所)



- 3 **咽頭結膜熱**: 第 30 週は市全体で定点あたり 0.37 と減少しましたが、保土ケ谷区 1.20 で警報レベルが継続しています。



- 4 **手足口病**: 第 30 週は市全体で定点あたり 1.62 と、前週から減少しました。ただ、磯子区 8.75、港南区 4.40 で警報レベルとなっています。



- 5 **性感染症**: 6 月は、性器クラミジア感染症は男性が 21 件、女性が 15 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 8 件、女性が 6 件です。尖圭コンジローマは男性 4 件、女性が 1 件でした。淋菌感染症は男性が 20 件、女性が 0 件でした。

- 6 **基幹定点週報**: マイコプラズマ肺炎は第 26 週 0.75、第 27 週 0.00、第 28 週 0.33、第 29 週 0.00、第 30 週 0.00 と落ち着いています。感染性胃腸炎 (ロタウイルス) は第 26 週 0.50 以降、第 30 週まで報告はありません。クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

- 7 **基幹定点月報**: 6 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 4 件、薬剤耐性緑膿菌感染症 1 件、薬剤耐性アシネトバクター感染症 1 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

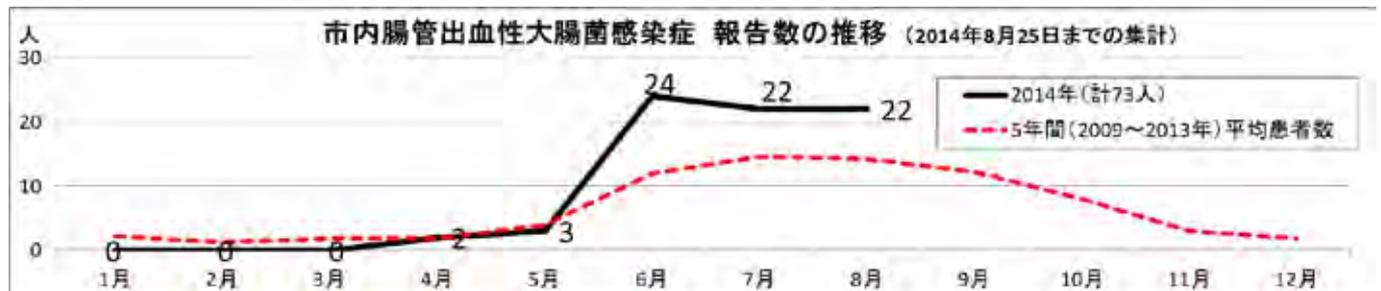
1 腸管出血性大腸菌感染症の報告が多い状況が続いています。

全数把握の対象

【8 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1 件	急性脳炎	1 件
腸管出血性大腸菌感染症	22 件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件
マラリア	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件
レジオネラ症	5 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	2 件
アメーバ赤痢	2 件	破傷風	2 件
ウイルス性肝炎	1 件		

- 細菌性赤痢: *Shigella sonnei*(D 群)の報告が 1 件あり、渡航先(エジプト)での感染が推定されています。
- 腸管出血性大腸菌感染症: 計 22 件(O157VT1VT2 14 件、O157H7VT1VT2 1 件、O157VT2 3 件、O157VT 不明 1 件、O121VT2 2 件、O112VT1 1 件)の報告がありました。焼肉店での喫食を原因とするものや、家族内での 2 次感染によるもの等が報告されています。今年の報告数は、6 月から過去 5 年間の平均を上回る状態が続いています。9 月にかけても例年報告が多いため、肉は十分に加熱(中心部まで 75 で 1 分間以上加熱)し、食品はよく洗い新鮮な材料を使うなど予防対策が重要です。家庭内での 2 次感染予防では、手洗いをしっかりと行い、下痢症状がある人は専用のタオルを使用し、トイレは常に清潔に掃除して、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにするのが大切です。全国的には毎年保育施設における集団発生が多くみられており、オムツ交換時の手洗い、園児に対する排便後・食事前の手洗い指導の徹底が重要です。また、簡易プールなどの衛生管理にも注意を払う必要があります。さらに、過去には動物とのふれあい体験での感染と推定される事例も報告されており、動物との接触後の十分な手洗いや消毒も重要です。

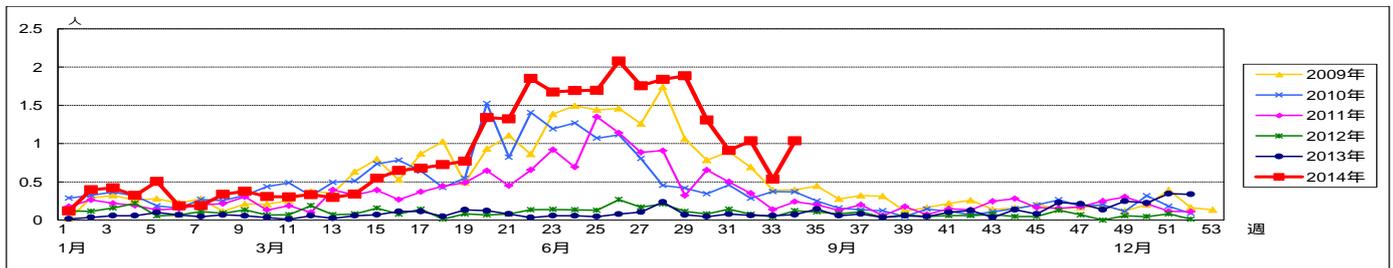


- マラリア: 三日熱マラリアの報告が 1 件あり、渡航先(インド)での感染が推定されています。
- レジオネラ症: 肺炎型 5 件の報告がありました。現在感染経路等調査中です。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 2 件の報告があり、1 件は日本での感染が推定されていますが感染経路等不明、もう 1 件は感染経路感染地域等不明でした。
- ウイルス性肝炎: 1 件の B 型肝炎の報告があり、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。
- 急性脳炎: 40 歳代の報告が 1 件ありました。病原体検索中です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 30 歳代の報告が 1 件あり、血清型は A 群(国内の統計では、本症の起原菌は A 群が最も多く報告されています。)です。創傷感染が推定されています。
- クロイツフェルト・ヤコブ病: 1 件の古典型 CJD の報告があり、診断の確実度はほぼ確実です。
- 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者 2 件の報告がありました。どちらも国内での同性間性的接触による感染でした。
- 破傷風: 2 件の報告がありました。1 件は 90 歳代で転倒による外傷からの感染が推定されています。もう 1 件は 70 歳代で感染経路等不明です。

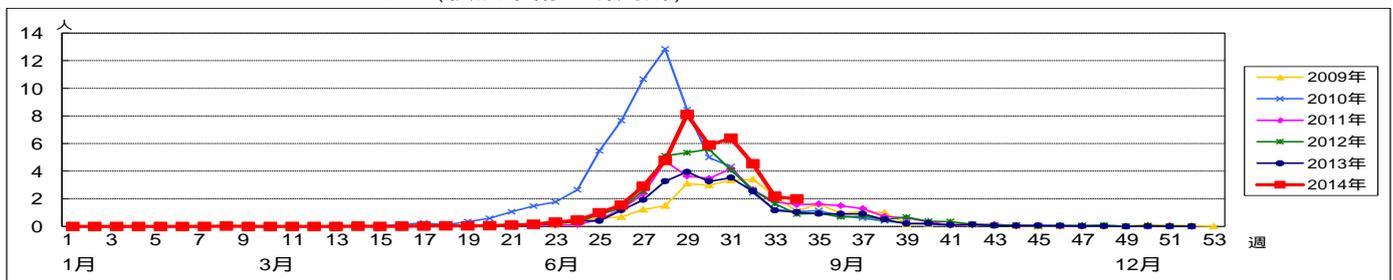
定点把握の対象

平成 26 年 週 - 月日対照表	
第 31 週	7 月 28 日 ~ 8 月 3 日
第 32 週	8 月 4 日 ~ 10 日
第 33 週	8 月 11 日 ~ 17 日
第 34 週	8 月 18 日 ~ 24 日

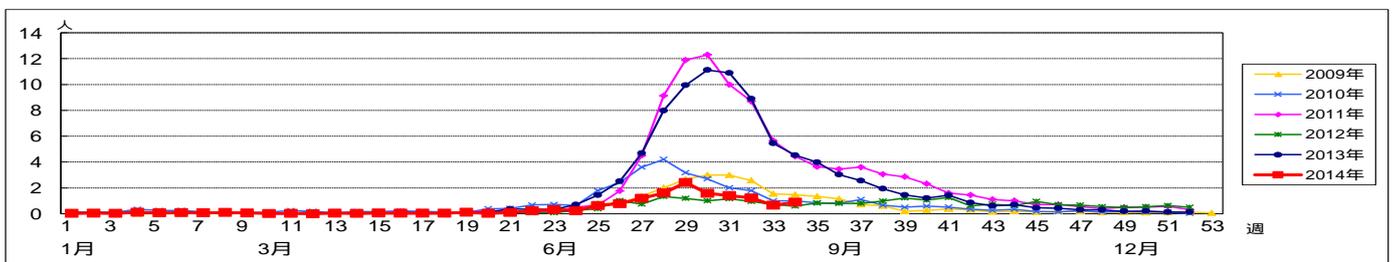
- 1 **伝染性紅斑**: 第 34 週は市全体で定点あたり 1.04 と、第 33 週 0.54 からやや増加しましたが、全体的には流行のピークは過ぎつつあります。しかし、緑区 2.80 など、報告の多い区もあり、もう少し注意が必要です。
伝染性紅斑について(国立感染症研究所)
横浜市感染症臨時情報: 伝染性紅斑



- 2 **ヘルパンギーナ**: 第 34 週は市全体で定点あたり 1.99 となり、流行のピークは過ぎつつあります。しかし、神奈川区 4.00 などと報告の多い区もあり、もう少し注意が必要です。感染予防では、患者との密接な接触を避け、流行時にうがいや手洗いをしっかりと行うことが重要です。特に患児のおむつを替えた後などは、よく手を洗いましょう。
ヘルパンギーナについて(横浜市衛生研究所)



- 3 **手足口病**: 第 34 週は市全体で定点あたり 0.89 となっています。区別では、港南区 3.25 などと報告の多い区もあり、もう少し注意が必要です。



- 4 **性感染症**: 7 月は、性器クラミジア感染症は男性が 29 件、女性が 13 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 7 件、女性が 9 件です。尖圭コンジローマは男性 4 件、女性が 1 件でした。淋菌感染症は男性が 17 件、女性が 0 件でした。
- 5 **基幹定点週報**: マイコプラズマ肺炎は第 31 週 1.00、第 32 週 0.33、第 33 週 0.67、第 34 週 1.00 と報告が多くなっています。週当たりの報告が 1.00 以上となるのは 2013 年第 52 週以来です。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎の報告はありませんでした。
- 6 **基幹定点月報**: 7 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 3 件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- Ⅰ デング熱の国内感染例が報告されています。
- Ⅰ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が多い状況が続いています。

全数把握の対象

【9 月期に報告された全数把握疾患】

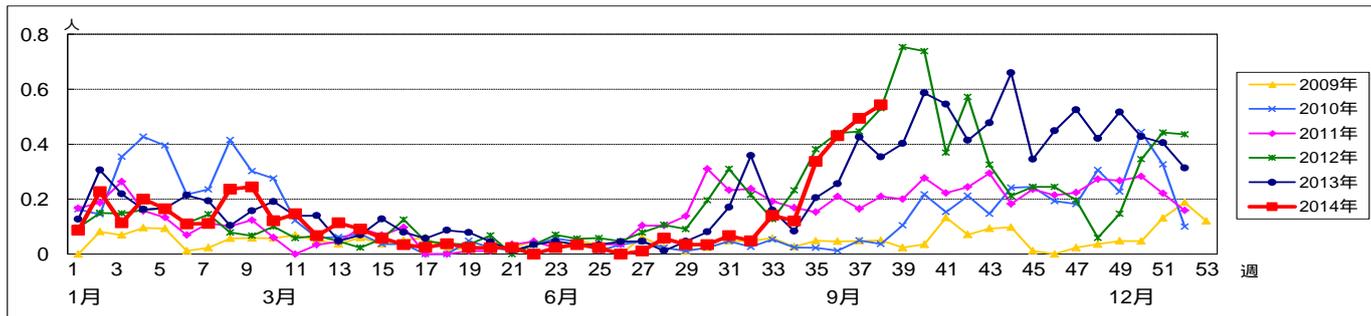
腸管出血性大腸菌感染症	10 件	後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	3 件
デング熱	6 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2 件
レジオネラ症	5 件	侵襲性肺炎球菌感染症	3 件
アメーバ赤痢	5 件	梅毒	2 件
急性脳炎	3 件	風しん	1 件

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**: 計 10 件 (O157VT2 6 件、O157VT1 1 件、O26VT1 2 件、O145VT2 1 件) の報告がありました。肉は十分に加熱 (中心部まで 75℃ で 1 分間以上加熱) し、食品はよく洗い新鮮な材料を使うなど予防対策が重要です。家庭内での 2 次感染予防では、手洗いをしっかりと行い、下痢症状がある人は専用のタオルを使用し、トイレは常に清潔に掃除して、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにすることが大切です。
- 2 **デング熱**: 6 件 (海外感染例 1 件、国内感染例 5 件) の報告がありました。1999 年から 2014 年 7 月まで感染症発生動向調査で報告された症例はすべて海外での感染例でしたが、2014 年 8 月に都内公園で感染したと推定される症例が報告されて以来、9 月 22 日までに計 142 名の国内発生例が報告されています。横浜市内の医療機関からも、9 月 22 日までの時点で 7 件の国内発生例の届出 (うち 1 件は市外在住) があり、すべての症例で代々木公園への訪問歴がありました。横浜市内の蚊の調査では、デング熱のウイルスは認められていません。デング熱は通常 3~7 日の潜伏期の後、急激な発熱で発症し、発疹、頭痛、骨関節痛、吐気・嘔吐などの症状が出現します。デング熱の詳細な所見、診断方法や治療法については「デング熱診療ガイドライン (第 1 版) について (厚生労働省)」を参照してください。
- 3 **レジオネラ症**: 肺炎型 4 件、ポンティアック型 1 件の報告がありました。現在感染経路等調査中です。
- 4 **アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症 4 件、腸管及び腸管外アメーバ症 1 件の報告がありました。報告のうち 1 件は国内での経口感染が推定されていますが、他はすべて性的接触による感染が推定されています。
- 5 **急性脳炎**: 3 件の報告 (2 歳 7 ヶ月児、4 ヶ月児、1 ヶ月児) がありました。病原体検索中です。この 3 件の疫学的なつながりは確認されていません。2014 年は、9 月 22 日までに既に 10 件の報告があります。2013 年 5 件、2012 年 8 件、2011 年 7 件と、過去 3 年間と比べてやや報告が多くなっており注意が必要です。
- 6 **後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)**: 無症状病原体保有者 3 件の報告がありました。そのうち 2 件は国内、残る 1 件は海外 (タイ) での同性間性的接触による感染でした。
- 7 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**: 2 件の報告 (60 歳代、90 歳代) がありました。
- 8 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 3 件の報告 (80 歳代、70 歳代、20 歳代) があり、80 歳代と 70 歳代の 2 件は予防接種歴が確認できませんでした。20 歳代の 1 件は生体肝移植者で、予防接種歴が 1 回有りました。
- 9 **梅毒**: 早期顕症梅毒 期 (丘疹性梅毒疹有り。国内での異性間性的接触による感染) が 1 件、晚期顕症梅毒 (神経症状有り。感染経路感染地域等不明) の報告が 1 件ありました。
- 10 **風しん**: 学童の臨床診断例 (予防接種歴 1 回有り) が 1 件ありました。

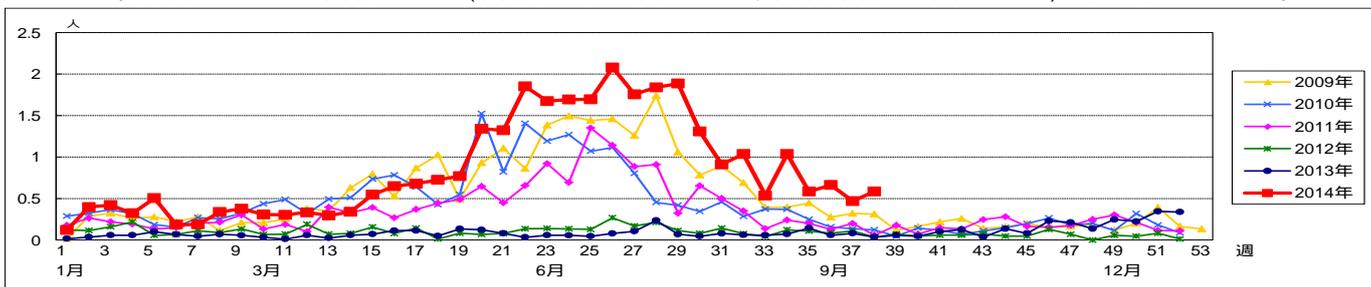
定点把握の対象

平成 26 年 週 - 月日対照表	
第 35 週	8 月 25 日 ~ 31 日
第 36 週	9 月 1 日 ~ 7 日
第 37 週	9 月 8 日 ~ 14 日
第 38 週	9 月 15 日 ~ 21 日

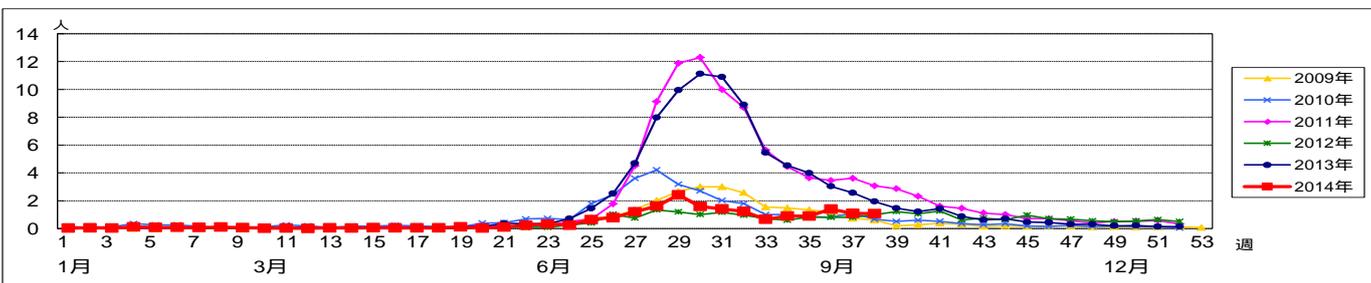
- 1 **RSウイルス感染症**:第 33 週頃から報告が増加し、第 38 週は市全体で定点あたり 0.54 となっています。例年これからの時期は報告数が多い状態が続くので注意が必要です。区別では緑区 2.50 で報告が多くなっています。



- 2 **伝染性紅斑**:第 26 週の市全体で定点あたり 2.08 をピークに徐々に報告数は減少し、第 38 週 0.59 となっています。港南区 2.33 で警報レベル(警報発令基準値:2.00、警報解除基準値:1.00)が継続しています。



- 3 **手足口病**:第 38 週は市全体で定点あたり 1.07 となっています。区別では、港南区 3.00 で警報レベル(警報発令基準値:5.00、警報解除基準値:2.00)が継続しています。



- 4 **性感染症**:8 月は、性器クラミジア感染症は男性が 12 件、女性が 17 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 4 件、女性が 3 件です。尖圭コンジローマは男性 7 件、女性が 1 件でした。淋菌感染症は男性が 20 件、女性が 0 件でした。
- 5 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は第 35 週 2.25、第 36 週 0.50、第 37 週 0.00、第 38 週 0.00 と、第 36 週以降報告はやや落ち着いてきました。無菌性髄膜炎は第 38 週に 1 件報告がありました。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。
- 6 **基幹定点月報**:8 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 4 件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- 1 腸管出血性大腸菌感染症の報告が多い状況が続いています。
- 1 今シーズン初の学級閉鎖(小学校)があり、インフルエンザ A 香港型が検出されています。

全数把握の対象

【10 月期に報告された全数把握疾患】

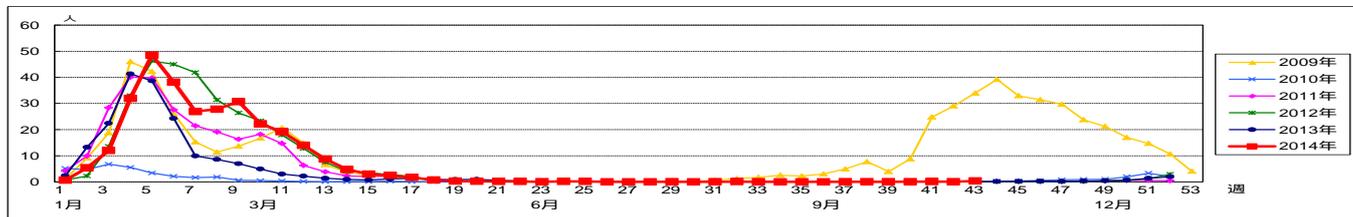
腸管出血性大腸菌感染症	16 件	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3 件
腸チフス	1 件	急性脳炎	4 件
エキノкокス症	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件
デング熱	2 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	1 件
レジオネラ症	7 件	侵襲性肺炎球菌感染症	2 件
レプトスピラ症	1 件	梅毒	2 件
アメーバ赤痢	6 件	風しん	1 件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: 計 16 件の報告がありました。同一の原因による集団感染などはありませんでしたが、家族内感染が 2 件、HUS を発症したものが 1 件ありました。季節も移り変わり気温も低くなってきましたが、まだ報告もあり、引き続き注意が必要です。肉は十分に加熱(中心部まで 75 で 1 分以上加熱)し、食品はよく洗い新鮮な材料を使うなど予防対策が重要です。家庭内での 2 次感染予防では、手洗いをしっかりと行い、下痢症状がある人は専用のタオルを使用し、トイレは常に清潔に掃除して、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにすることが大切です。
- 2 腸チフス: 1 件の報告がありました。渡航先(ミャンマー)での感染が推定されています。
- 3 エキノкокス症: 1 件の報告がありました。患者は以前北海道の牧場で勤務していたことがあり、北海道での感染が推測されています。国の感染症サーベイランスシステム(NESID)で検索できる 2006 年以降では、横浜市で届出があったのは初めてです。
- 4 デング熱: 2 件(海外感染例 1 件、国内感染例 1 件)の報告があり、国内例では明治神宮で蚊に刺されたエピソードがありました。横浜市内の医療機関からは、10 月 24 日までの時点で 8 件の国内感染例の届出(うち 2 件は市外在住)があり、すべて都内での感染が疑われていました。全国では 2014 年 8 月に都内公園で感染したと推定される症例が報告されて以来、計 159 名の国内感染例が報告されていますが、10 月 7 日に発症した東京都の症例以降報告はありません。デング熱は通常 3~7 日の潜伏期の後、急激な発熱で発症し、発疹、頭痛、骨関節痛、吐気・嘔吐などの症状が出現します。デング熱の詳細な所見、診断方法や治療法については「デング熱診療ガイドライン(第 1 版)について(厚生労働省)」を参照してください。
- 5 レジオネラ症: 肺炎型 7 件の報告がありました。現在感染経路等調査中です。
- 6 レプトスピラ症: 1 件の報告がありました。西表島での水系感染が推定されています。
- 7 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 6 件の報告がありました。
- 8 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 平成 26 年 9 月 19 日から五類感染症になりました。3 件の届出があり、1 件は胆管炎の症例で胆汁から *E.aerogenes*、もう 1 件は皮膚炎で真皮層から *K.oxytoca*、残るもう 1 件は肺炎で喀痰から *E.cloacae* が検出されています。いずれも MEPM 耐性でした。
- 9 急性脳炎: 4 件の報告(生後 13 日、1 ヶ月、4 ヶ月、1 歳 10 ヶ月児)がありました。病原体検索中です。この 4 件の疫学的なつながりは確認されていません。2014 年は、10 月 24 日までに既に 14 件の報告があります。2013 年 5 件、2012 年 8 件、2011 年 7 件と、過去 3 年間と比べてやや報告が多くなっており注意が必要です。
- 10 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 60 歳代女性の報告が 1 件あり、血清型は A 群でした。感染原因感染経路は不明です。
- 11 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者 1 件の報告があり、国内での同性間性的接触による感染でした。
- 12 侵襲性肺炎球菌感染症: 2 件の報告(70 歳代、50 歳代)があり、ともに予防接種歴は確認できませんでした。
- 13 梅毒: 早期顕症梅毒 1 件、無症候期 1 件の報告があり、ともに国内の異性間性的接触による感染です。
- 14 風しん: 30 歳代男性の臨床診断例(予防接種歴無し)が 1 件ありました。

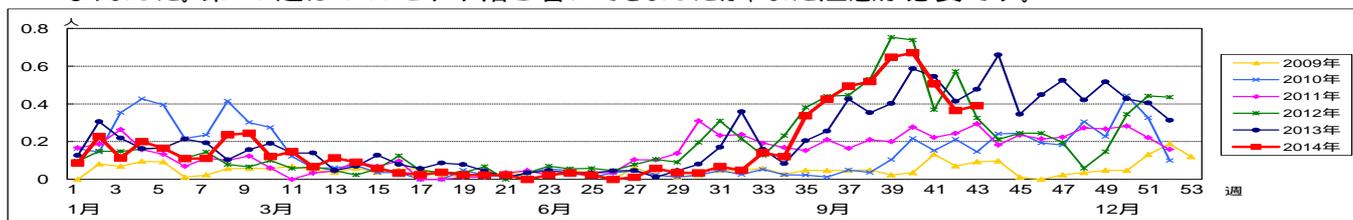
定点把握の対象

平成 26 年 週 - 月日対照表	
第 39 週	9 月 22 日 ~ 28 日
第 40 週	9 月 29 日 ~ 10 月 5 日
第 41 週	10 月 6 日 ~ 12 日
第 42 週	10 月 13 日 ~ 19 日
第 43 週	10 月 20 日 ~ 26 日

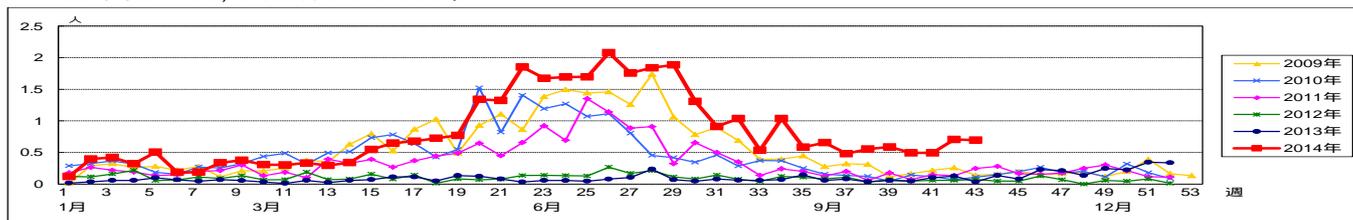
- 1 **インフルエンザ**: 第 43 週は市全体で定点あたり 0.34 と落ち着いていますが、第 43 週には市内小学校で今シーズン初めての学級閉鎖がありました。学童から得られた検体から A/H3N2(A 香港)型インフルエンザウイルスが検出されています。第 43 週は全インフルエンザ定点から 43 名の患者報告があり、その内迅速キットを実施して陽性だった 37 名はすべて A 型でした。



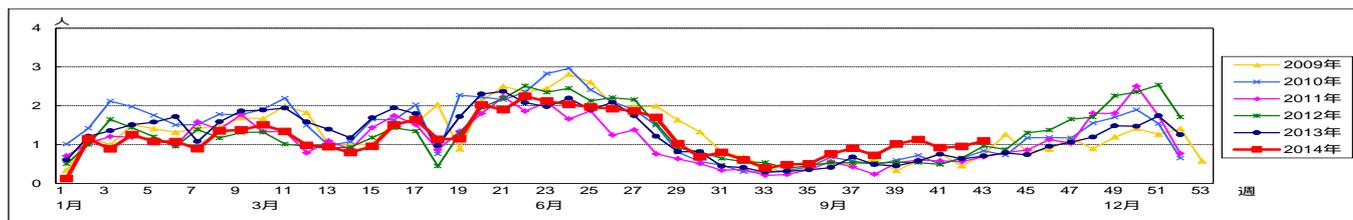
- 2 **RS ウイルス感染症**: 第 33 週頃から報告が増加し、第 40 週は市全体で定点あたり 0.67 と、今年に入り最多になりました。第 43 週は 0.39 とやや落ち着いてきましたが、まだ注意が必要です。



- 3 **伝染性紅斑**: 第 26 週の市全体で定点あたり 2.08 をピークに徐々に報告数は減少してきましたが、第 35 週付近以降から横ばいが続いています。第 43 週は泉区 2.75 で警報レベル(警報発令基準値: 2.00、警報解除基準値: 1.00)が継続しています。



- 4 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 第 43 週は市全体で定点あたり 1.10 です。例年年末にかけて漸増する傾向があるので、注意が必要です。



- 5 **性感染症**: 9 月は、性器クラミジア感染症は男性が 24 件、女性が 9 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 4 件、女性が 6 件です。尖圭コンジローマは男性 15 件、女性が 3 件でした。淋菌感染症は男性が 11 件、女性が 1 件でした。
- 6 **基幹定点週報**: マイコプラズマ肺炎は第 39 週 1.00、第 40 週 0.33、第 41 週 1.25、第 42 週 0.25 第 43 週 0.00 と、やや報告の多い週が見られています。無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。
- 7 **基幹定点月報**: 9 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 4 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 1 件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- | インフルエンザが例年より早く流行期に入りました。
- | RS ウイルス感染症の報告が多い状態が継続しています。
- | 感染性胃腸炎、伝染性紅斑の報告が増加傾向です。
- | 海外(ベトナム)での麻しん感染例が報告されました。

全数把握の対象

【11 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	6 件
腸管出血性大腸菌感染症	6 件	侵襲性肺炎球菌感染症	5 件
デング熱	2 件	水痘(入院例に限る)	1 件
レジオネラ症	5 件	梅毒	2 件
アメーバ赤痢	6 件	風しん	1 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4 件	麻しん	1 件
急性脳炎	2 件	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1 件

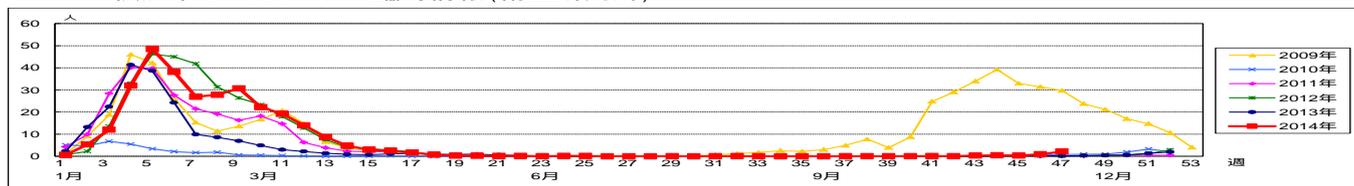
- 1 細菌性赤痢: *Shigella sonnei*(D 群)の報告が 1 件あり、渡航先(インド:デリー)での感染が推定されています。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症: 計 6 件の報告がありました。原因が明らかになった集団感染はありませんでしたが、家族内感染が 1 件ありました。家庭内での 2 次感染予防では、手洗いをしっかりと行い、下痢症状がある人は専用のタオルを使用し、トイレは常に清潔に掃除して、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは特に念入りにきれいにするのが大切です。
- 3 デング熱: 海外感染例が 2 件(タイおよびベトナムでの感染)報告されました。全国で、11 月以降国内感染例は報告されていません。
- 4 レジオネラ症: 肺炎型 5 件の報告がありました。現在感染経路等調査中です。
- 5 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 5 件、腸管外アメーバ症 1 件の報告がありました。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 4 件の届出があり、1 件は膝関節炎で *E. cloacae*、もう 1 件は尿路感染症で *E. cloacae*、もう 1 件も尿路感染症で *E. cloacae* および *Morganella morganii*、残る 1 件は血液から *E. cloacae* が検出されています。
- 7 急性脳炎: 2 件の報告(1 歳 7 ヶ月児、40 歳)がありました。病原体検索中です。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): AIDS 1 件、無症状病原体保有者 5 件の報告があり、すべて同性間性的接触による感染でした。
- 9 侵襲性肺炎球菌感染症: 乳児 1 件、成人 4 件報告がありました。乳児(2 ヶ月児)は 13 価結合ワクチン接種歴が 1 回有りました。成人例(40 歳代 1 例、50 歳代 1 例、80 歳代 2 例)では予防接種歴は確認できませんでした。
- 10 水痘(入院例に限る): 平成 26 年 9 月 19 日から入院例に限り届出が必要になりました。3 歳児の届出が 1 件ありました。予防接種歴は確認できませんでした。
- 11 梅毒: 早期顕症梅毒 期 1 件(異性間性的接触による感染)、無症候期 1 件(同性間性的接触による感染)の報告がありました。
- 12 風しん: 2 歳児の臨床診断例(予防接種歴 1 回有り)が 1 件ありました。
- 13 麻しん: 20 歳代男性の検査診断例(遺伝子型 D8)の報告がありました。予防接種歴は本人からの聞き取りでは 1 回有るとのことでした。渡航先(ベトナム)での感染が推定されています。海外からの感染を広げないためにも予防接種が大切です。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「麻しん検査診断アルゴリズム」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期の PCR 検査が有用です。検査については最寄りの福祉保健センターにご連絡ください。
- 14 薬剤耐性アシネトバクター感染症: 平成 26 年 9 月 19 日から全数届出疾患になりました。70 歳代の届出が 1 件ありました。

定点把握の対象

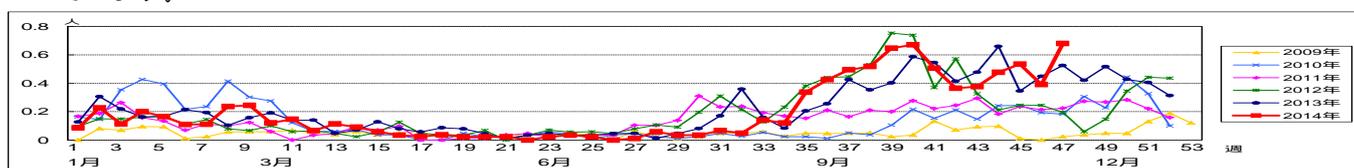
平成 26 年 週 - 月日対照表	
第 44 週	10 月 27 日 ~ 11 月 2 日
第 45 週	11 月 3 日 ~ 9 日
第 46 週	11 月 10 日 ~ 16 日
第 47 週	11 月 17 日 ~ 23 日

- 1 **インフルエンザ**: 第 47 週は市全体で定点あたり 2.16 と、流行開始の目安となる 1.00 を上回り、昨年より 4 週間早く、最近 5 年間でも最も早い流行期入りとなりました。区別では都筑区 7.33 で最も多く、次に戸塚区 6.56、泉区 4.14 などと、13 区で 1.00 を上回っています。学級閉鎖も第 43 週 1 施設、第 46 週 1 施設、第 47 週 5 施設と増加しており、現在もさらに報告が続いています。第 47 週の迅速キットの結果では A 型 98.3%、B 型 1.2%、AB ともに検出 0.4% (小数点第 2 位四捨五入) と、ほとんどが A 型です。全国のウイルス検出状況ではほとんどが AH3 亜型 (A 香港型) です。今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策が重要です。

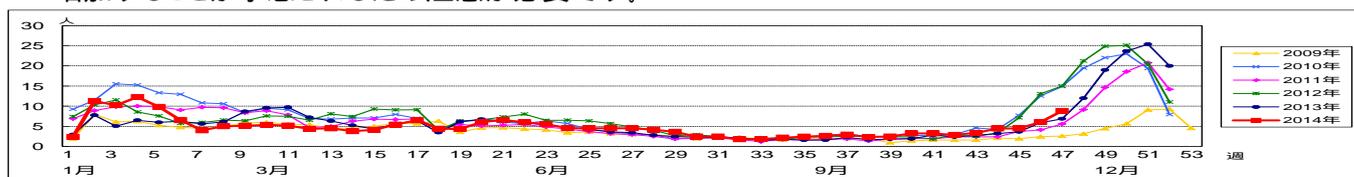
横浜市インフルエンザ臨時情報 (衛生研究所)



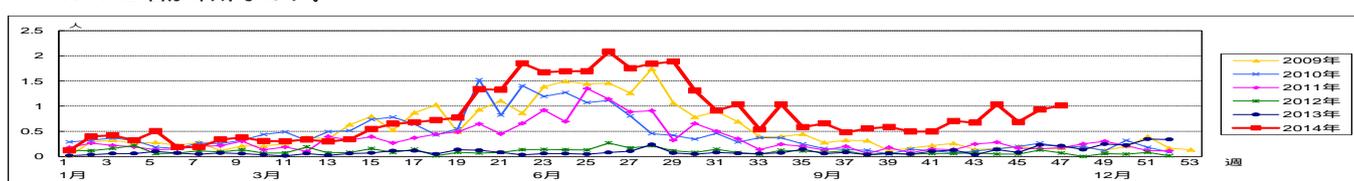
- 2 **RSウイルス感染症**: 第 47 週は市全体で定点あたり 0.68 と今シーズン最多になり、報告数の多い状態が継続しています。



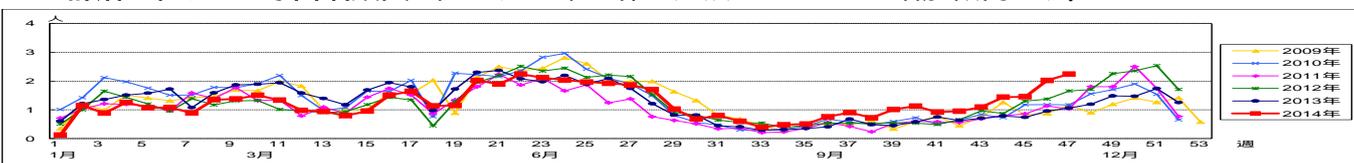
- 3 **感染性胃腸炎**: 第 47 週は 8.79 と増加傾向です。集団感染の報告も寄せられており、これからの季節にかけて増加することが予想されるため注意が必要です。



- 4 **伝染性紅斑**: 8 月頃は減少傾向を示していましたが、その後下げ止まった後、第 47 週は市全体で定点あたり 1.01 と増加傾向です。



- 5 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 第 47 週は市全体で定点あたり 2.24 と増加傾向です。



- 6 **性感染症**: 10 月は、性器クラミジア感染症は男性が 15 件、女性が 19 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 5 件、女性が 8 件です。尖圭コンジローマは男性 7 件、女性が 2 件でした。淋菌感染症は男性が 9 件、女性が 2 件でした。
- 7 **基幹定点週報**: マイコプラズマ肺炎は第 44 週 1.50、第 45 週 0.50、第 46 週 0.00、第 47 週 0.00 となっています。無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎 (ロタウイルスによるもの)、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。
- 8 **基幹定点月報**: 10 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 7 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- 1 インフルエンザ注意報が昨シーズンより 5 週早く発令されました。
- 1 RS ウイルス感染症の報告が近年で最も多い状態が継続しています。
- 1 感染性胃腸炎、伝染性紅斑、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が増加傾向です。

全数把握の対象

【12 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	3 件	後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	4 件
マラリア	1 件	ジアルジア症	1 件
レジオネラ症	3 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
アメーバ赤痢	3 件	侵襲性肺炎球菌感染症	6 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6 件	水痘 (入院例に限る)	1 件
急性脳炎	3 件	梅毒	2 件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 件		

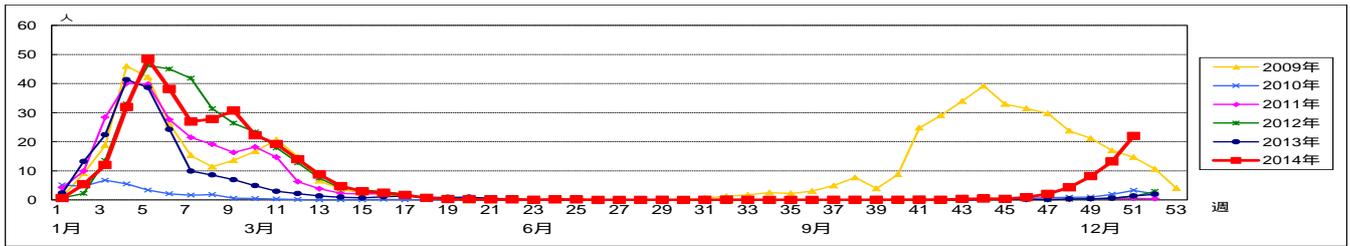
- 1 腸管出血性大腸菌感染症: 計 3 件の報告がありました。原因が明らかになった事例や集団感染事例はありませんでした。家庭内での 2 次感染予防では、手洗いをしっかりと行い、下痢症状がある人は専用のタオルを使用し、トイレは常に清潔に掃除して、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは特に念入りにきれいにすることが大切です。
- 2 マラリア: 熱帯熱マラリアの報告が 1 件あり、渡航先 (コスタリカまたはコートジボワール) での感染が推定されています。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型 3 件の報告がありました。現在感染経路等調査中です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 3 件の報告がありました。1 件はタイでの経口感染、もう 1 件は国内での同性間性的接触、残る 1 件は感染経路等不明でした。
- 5 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 6 件の届出があり、すべて 70 歳代以上でした。院内での集団感染等はありませんでした。
- 6 急性脳炎: 3 件の報告がありました。そのうち 2 件 (幼児および 40 歳代) では迅速検査でインフルエンザ A 型陽性でした。残るもう 1 件は学童で病原体検索中です。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 2 件の報告があり、1 件は 90 歳代男性で血清型は G 群、もう 1 件は 30 歳代女性で血清型は A 群でした。どちらも感染経路等は不明でした。
- 8 後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者 4 件の報告があり、うち 2 件は国内での同性間性的接触、1 件はベトナムでの異性間性的接触、もう 1 件は異性間性的接触による感染で、感染地域不明でした。
- 9 ジアルジア症: 1 件の報告があり、インド (ムンバイまたはハイデラバード) での経口感染が推定されています。
- 10 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 60 歳代男性 1 件の報告がありました。
- 11 侵襲性肺炎球菌感染症: 幼児 1 件、学童 1 件、成人 4 件の報告がありました。幼児は予防接種歴 (13 価) が 2 回有りました。成人例は 1 件 (80 歳代) で予防接種歴 (今年 9 月に 23 価型接種) が有りました。この例では血清型は 1 型でした。他は予防接種歴が確認できませんでした。
- 12 水痘 (入院例に限る): 90 歳代の届出が 1 件ありました。予防接種歴は不明でした。
- 13 梅毒: 早期顕症梅毒 1 件、無症候期 1 件の報告がありました。どちらも国内での異性間性的接触による感染でした。

定点把握の対象

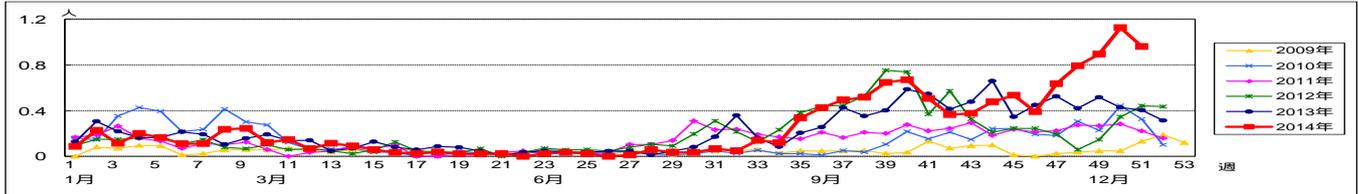
- 1 インフルエンザ: 第 50 週に市全体で定点あたり 13.22 となり、注意報が発令 (注意報発令基準値 10.00) されました。昨シーズンより 5 週間早い注意報発令です。第 51 週は市全体で 21.96 とさらに増加していま

平成 26 年 週 - 月日対照表	
第 48 週	11 月 24 日 ~ 11 月 30 日
第 49 週	12 月 1 日 ~ 7 日
第 50 週	12 月 8 日 ~ 14 日
第 51 週	12 月 15 日 ~ 21 日

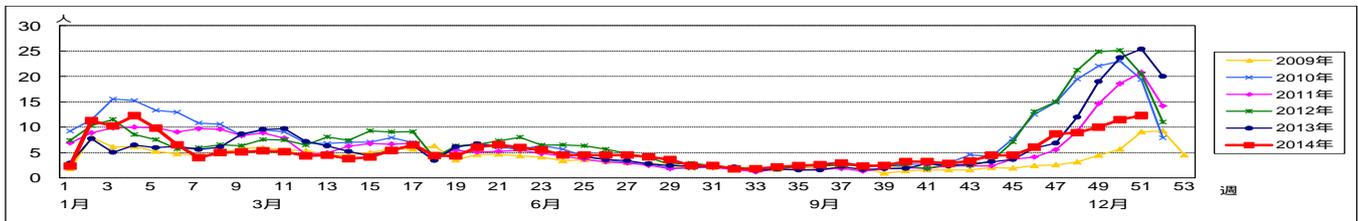
す。入院例やインフルエンザ脳症も報告されており、今後の流行に注意が必要です。流行の主体は全国と同様に AH3 亜型 (A 香港型) です。 横浜市インフルエンザ臨時情報 (衛生研究所)



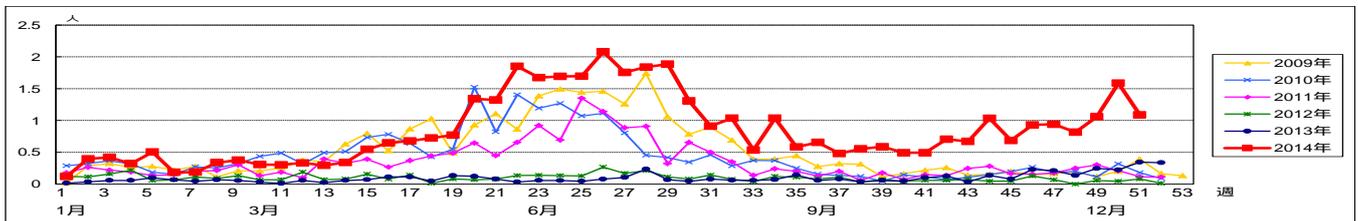
2 RS ウイルス感染症: 第 51 週は市全体で定点あたり 0.96 と今シーズン最多になり、2009 年以來最も報告数が多くなっています。



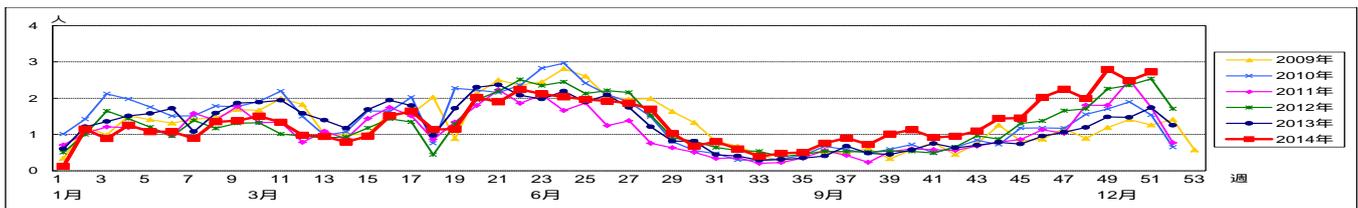
3 感染性胃腸炎: 今シーズンは例年の同時期に比べて報告数は少ないですが、第 51 週 12.28 と増加傾向です。集団感染の検体からはノロウイルスが検出されています。これからの季節にかけて増加することが予想されるため注意が必要です。 横浜市感染性胃腸炎臨時情報 (衛生研究所)



4 伝染性紅斑: 8 月頃は減少傾向を示していましたが、その後下げ止まった後、最近はやや増加傾向です。



5 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 第 51 週は市全体で定点あたり 2.72 と増加傾向です。例年よりやや報告数が多い状態で推移しています。

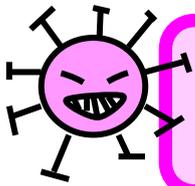


6 性感染症: 11 月は、性器クラミジア感染症は男性が 24 件、女性が 17 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 7 件、女性が 11 件です。尖圭コンジローマは男性 7 件、女性が 1 件でした。淋菌感染症は男性が 19 件、女性が 0 件でした。

7 基幹定点週報: マイコプラズマ肺炎は第 48 週 1.50、第 49 週 0.33、第 50 週 0.00、第 51 週 0.00 となっています。無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎 (ロタウイルスによるもの)、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

8 基幹定点月報: 11 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 3 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>



感染症に気をつけよう！



平成26年
【1月号】

横浜市内の感染症 流行状況

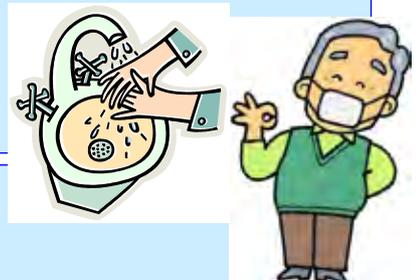
感染症	流行状況		説明 【 】は解説付き既刊号
感染性胃腸炎	 大流行	 増加	市全体で過去5年間と比べ最も増加し、16区で警報レベルです。適切な手洗い・消毒・加熱で予防しましょう。【12月号】
インフルエンザ	 流行	 やや増加	流行期に入りました。学級閉鎖も報告されています。下の解説を参考にして、本格的な流行に備えましょう。
RSウイルス感染症	 やや流行	 横ばい	報告の多い状況が続いています。寒い季節に流行する風邪の一つです。予防には手洗いが最も大切です。【10月号】
水痘 (水ぼうそう)	 やや流行	 横ばい	警報・注意報レベルの区もあります。例年、冬から春にかけて増加します。予防接種が有効です。

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ

 インフルエンザウイルスの感染が原因です。症状は 38 以上の発熱や咳、のどの痛み、全身の倦怠感(けんたいかん)や関節痛などで、普通の風邪とは違います。例年、1~2月に流行のピークがあり、学校等では集団発生も起きます。特に、高齢者・小児・妊婦や、ぜん息などの持病があると、重くなりやすく注意が必要です。

 患者の咳で飛び散ったしぶき(飛沫:ひまつ)や鼻水には、ウイルスが含まれているので、飛沫を含んだ空気を吸い込んだ人に、インフルエンザが感染します。飛沫で汚れた物に触れた手からも、目や鼻の粘膜を通じて感染します。

 感染を避けるためには手洗いうがいが大事です。また、人混みを避け、規則正しい生活を心がけましょう。部屋の湿度を保つことも効果的です。予防接種も有効です。

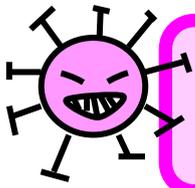


 患者になったら他の人にうつさないように、マスクを着けるなど飛沫が飛び散ることを防ぐ咳エチケットを守りましょう。

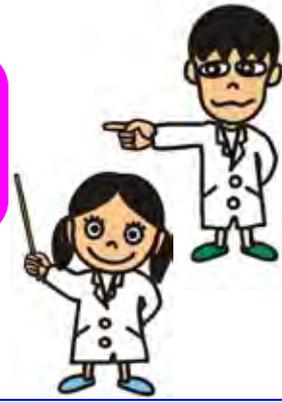
抗インフルエンザ薬を使って熱が下がっても、他の人にうつす場合があります。症状が出てから5日間が過ぎ、かつ、熱が下がった後2日間(幼児は3日間)は、学校等を休みましょう。



横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】



感染症に気をつけよう！



平成26年
[2月号]

横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明 〔 〕は解説付き既刊号
インフルエンザ	 大流行	 増加	1月末に警報が出ました。学級閉鎖も急増しています。下の解説を参考にして、 <u>流行の拡大に備えましょう。</u>
感染性胃腸炎	 流行	 やや増加	流行のピーク後、減少していましたが、再び増える傾向です。 <u>適切な手洗い・消毒・加熱で予防しましょう。</u> [12月号]
麻疹	 散発	 横ばい	海外での感染例が報告されました。 <u>予防にはワクチン接種が必要です。</u> 3月までの <u>費用助成も実施されています。</u>

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ

 **インフルエンザウイルスの感染が原因です。**症状は 38 以上の発熱や咳、のどの痛み、全身の倦怠感(けんたいかん)や関節痛などで、普通の風邪とは違います。例年、1~2月に流行のピークがあり、学校等では集団発生もみられます。

 **今シーズンに多く出ている型(AH1pdm09)は、**以前、世界的に流行した際、妊婦の重症化が問題になっており、妊婦では特に注意が必要です。また、すでに**インフルエンザによる脳症**が報告されています。症状の急激な悪化にも注意しましょう。高齢者やぜん息などの持病がある人も重症になりやすいです。自分で判断しないで**早めに受診**しましょう。

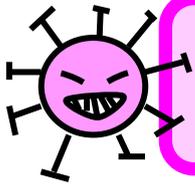


 **患者の咳で飛び散ったしぶき(飛沫:ひまつ)や鼻水には、ウイルスが**含まれているので、飛沫を含んだ空気を吸い込んだ人に、インフルエンザが感染します。飛沫で汚れた物に触れた手からも、目や鼻の粘膜を通じて感染します。感染を避けるためには手洗い・うがいが大事です。また、人混みを避け、規則正しい生活を心がけましょう。部屋の湿度を保つことも効果的です。

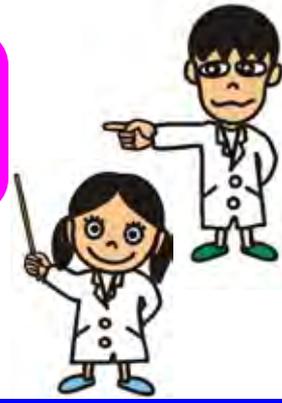


 **患者になったら他の人にうつさないように、マスクを着ける**など飛沫が飛び散ることを防ぐ咳エチケットを守りましょう。抗インフルエンザ薬を使って**熱が下がっても、他の人にうつす可能性**があります。症状が出てから5日間が過ぎ、かつ、熱が下がった後2日間(幼児は3日間)は、学校等を休みましょう。





感染症に気をつけよう！



平成26年
【3月号】

横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明 【】は解説付き既刊号
インフルエンザ	 大流行	 やや増加	B型が増えたため減少傾向が止まり、学級閉鎖も再び増加しています。予防や早目の受診を心がけましょう。【2月号】
麻疹 (はしか)	 散発	 やや増加	海外からの輸入例が、首都圏で増えています。下の解説を参考にして、予防接種で防ぎましょう。

今、気をつけたい感染症 麻疹

 現在、フィリピンなどで流行しており、海外で感染した人が国内で他の人に感染させる例が増えています。国内で感染した人では、気づかないうちに麻疹患者と接触し、感染したことが疑われるケースもあります。

 原因は麻疹ウイルスの感染で、感染力がとても強く、免疫のない人が感染すると、ほぼ100%発症します。10～12日位の潜伏期の後、初めは熱・咳など、かぜのような症状です。38以上の高熱が3～4日続き、いったん下がりかけ、再び上がるとともに全身に発疹が現れます。ほほの内側に白い斑点(コプリック斑)が出ることもあります。

肺炎や脳炎などの重い合併症を起こして、命に関わる場合もあります。麻疹が疑われる時は、事前に電話で相談してから、早めに受診しましょう。

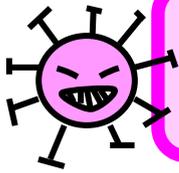
 特別な治療法はありませんが、2回の予防接種で防ぐことが可能です。次の時期に、麻疹・風疹混合(MR)ワクチンを無料(定期接種)で受けられます。

- 1回目 1歳以上2歳未満
- 2回目 5歳から7歳未満で小学校入学前の1年間

このワクチンは麻疹と風疹両方に効果があります。成人の場合、横浜市では風疹対策としてMRワクチンの費用助成を3月31日まで行っています。この機会にぜひ接種しましょう。



横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】



感染症に気をつけよう！



平成26年
【4月号】

横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明 【 】は解説付き既刊号
インフルエンザ	 流行	 減少	減少傾向ですが、まだ警報が解除されるレベルを上回っています。予防や早目の受診を心がけましょう。【2月号】
麻疹 (はしか)	 散発	 横ばい	海外からの輸入例が、首都圏で増えています。感染力がとても強いです。2回の予防接種で防ぎましょう。【3月号】
A型肝炎	 散発	 やや増加	全国的に例年の報告数を大きく上回り、国からも要注意の通知が出ています。下の解説をご覧ください。

今、気をつけたい感染症 A型肝炎

 市内でも昨年は4件、今年は3月までにすでに5件報告されています。以前は、冬から春にかけて増えてましたが、最近では夏でも発生しています。また、子供の患者はほとんどみられず、**高齢の患者が目立っています。**

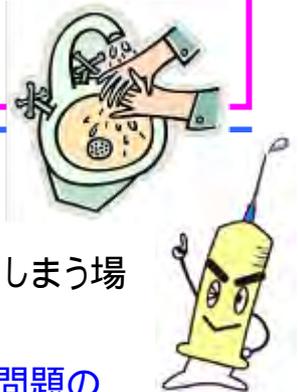
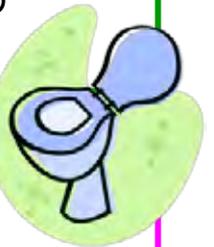
 **A型肝炎ウイルス**が原因です。このウイルスは**便に大量に排出**され、料理する人の手を介してや、自然に含むようになった生カキを食べるなどして、**汚染された水・食品が口に入ると感染**します。

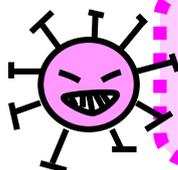
潜伏期間は長く、2～6週間です。**初めは風邪のような症状**(発熱・のどの痛み・頭痛)で、**その後、食欲不振・全身倦怠(けんたい)感・黄疸(おうだん)**が現れます。

通常、1～2か月で治りやすいですが、**年齢が上がると重くなる傾向**があります。まれですが、**命に関わることもあります**(劇症肝炎)。

 症状が出る前から便中へのウイルス排出が始まるので、感染が広がりやすく、**施設内や家族内では十分な注意**が必要です。子供では感染しても症状が出ない例が多く、そのまま集団発生の感染源になってしまう場合もあります。

予防には正しい手洗いが大事です。また、**衛生状態に問題のある外国への旅行前などには、ワクチンの接種**もすすめられます。





感染症に気をつけよう！



平成26年
[5月号]

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		説明 【 】は解説付き既刊号
麻しん (はしか)	★ 散発	➡ 横ばい	全国的に報告が続いており、今年はずでに昨年を上回っています。下の解説を参考にして、予防しましょう。 [3月号]
伝染性 こうはん 紅斑	★ やや流行	➡ やや増加	リンゴ(ほっぺ)病とも言われます。妊婦の感染では胎児に影響が出ることがあります。予防には手洗いが一番です。

今、気をつけたい感染症 麻しん

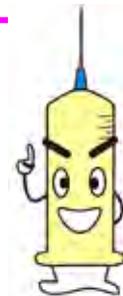


海外で感染した人から、国内で他の人に感染が広がる例が報告されています。職場で感染したケースもあります。患者の半数以上は、予防接種を受けたことが確認できていません。



原因は麻しんウイルスの感染で、感染力がとても強く、免疫のない人が感染すると、ほぼ100%発症します。10~12日位の潜伏期の後、初めは熱・咳など、かぜのような症状です。38以上の高熱が3~4日続き、いったん下がりかけ、再び上がるとともに全身に発しんが現れます。ほほの内側に白い斑点(コプリック斑)が出ることもあります。

肺炎や脳炎などの重い合併症を起こして、命に関わる場合もあります。麻しんが疑われる時は、事前に電話で相談してから、早めに受診しましょう。

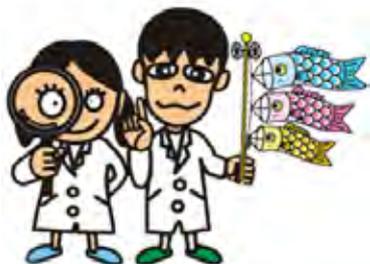
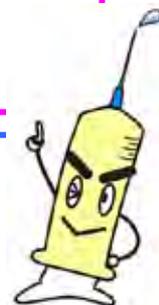


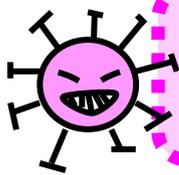
特別な治療法はありませんが、2回の予防接種で防ぐことが可能です。次の時期に、麻しん・風しん混合(MR)ワクチンを無料(定期接種)で受けられます。このワクチンは麻しんと風しん両方に効果があります。早目に接種しましょう。

1回目 1歳以上2歳未満

2回目 5歳から7歳未満で小学校入学前の1年間

また、海外旅行を予定している場合も、予防接種を受けておきましょう。





感染症に気をつけよう！



平成26年
【6月号】

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		説明
伝染性紅斑 <small>こうはん</small>	流行	増加	リンゴ病とも呼ばれます。区によっては警報レベルの流行がみられます。下の解説をご覧ください。
梅毒	やや流行	増加	全国的に増加しており、男性の同性間での感染が増えています。オーラルセックスでも感染の危険があります。
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	散発	やや増加	主に乳幼児がかかり、脱水症状が重いと入院も必要になります。予防にはワクチンが有効です。主治医に相談しましょう。

今、気をつけたい感染症 伝染性紅斑



4～5歳を中心に、平成23年以來の流行となっています。同じ時期としては、過去6年間で2番目に多い報告数です。例年、7月上旬頃にかけて増加する傾向があります。



国立感染症研究所 HP より



原因はヒトパルボウイルスB19 というウイルスの感染で、子供に多くみられます。患者の咳などのしぶきによる飛沫(ひまつ)あるいは接触で感染します。10～20日の潜伏(せんぷく)期間の後、両方のほほにリンゴの様な紅い発疹が現れ、続いて手足にも発疹が出ます。

ほほに発疹が出る7～10日くらい前に、かぜの様な症状が見られる例が多いです。この時期に患者からの感染力が高くなっていますが、発疹が出る頃には、感染力はほぼ消えています。



予防には手洗いが大切です。妊婦が感染すると、胎児の異常や流産を起こす可能性があります。妊婦は伝染性紅斑の流行期には、かぜの様な症状の人に近付かないように注意しましょう。万一感染した場合には医療機

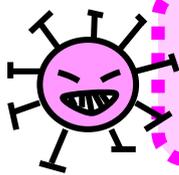


関に相談し、胎児の状態をよく調べておくことが重要です。

発疹が現れた時には感染力はほぼ消えているため、一般的には全身状態が良ければ登校(園)できます。病状によって医師に相談しましょう。



横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】



感染症に気をつけよう！



平成26年
〔7月号〕

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		説明 〔 〕は解説付き既刊号
腸管出血性 大腸菌感染症	やや流行	増加	例年夏にピークがあるため、今後に注意が必要です。下の解説を参考に、特徴を知って予防しましょう。
麻しん	やや流行	横ばい	全国的に報告され、海外からの輸入例や職場・家庭内での感染がみられます。 <u>2回のワクチンで予防</u> しましょう。〔5月号〕
伝染性紅斑 <small>こうはん</small>	流行	横ばい	リンゴ病とも呼ばれます。妊婦の感染では胎児に影響が出ることがあります。 <u>予防には手洗い</u> が大切です。〔6月号〕
インフル エンザ	散発	横ばい	区によっては報告が増加しています。迅速診断キットの結果では、ほとんどがA型です。夏でも注意しましょう。〔2月号〕

今、気をつけたい感染症 腸管出血性大腸菌感染症

O157(オーイチゴナ)などの**病原性大腸菌**に汚染された物を口にするのが原因です。焼肉による感染が、よく知られています。また、人から人への感染もみられ、家族内での感染や、保育施設等で集団感染が広がる原因になっています。

感染力が強く、通常 3~5 日の潜伏期間において**腹痛と下痢**が何回も起き、さらに、**血便**が出ることがあります。重症化すると溶血性尿毒症症候群(HUS)や脳症などになり、命に関わるケースもあります。特に、抵抗力の弱い乳幼児や高齢者では注意が必要です。



次の点を注意して予防しましょう！

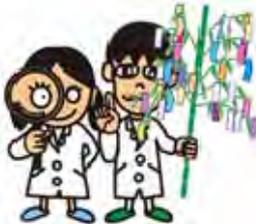
O157 は... 75 1分以上で死滅するので、肉は中心部まで加熱!
牛等の腸に存在しているため... 新鮮な肉も汚染されるので、

生肉に使った包丁・まな板は洗浄・消毒! はしは食べる時のはしと区別!

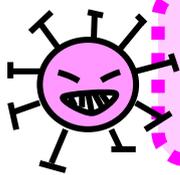
野菜が原因とされる... 感染例もあるので、食品はよく洗浄!

人から人への感染を防ぐには... 正しい手洗い!

症状が出たら... 下痢止めを飲まずに、早目に受診!



横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】



感染症に気をつけよう！



平成26年
【8月号】

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		説明 【】は解説付き既刊号
腸管出血性 大腸菌感染症	流行	増加	9月にかけても多く発生すると考えられます。下の解説を参考にして、 <u>人から人への感染にも注意</u> しましょう。【7月号】
伝染性紅斑 <small>こうはん</small>	流行	やや減少	リンゴ病とも呼ばれます。妊婦の感染では胎児に影響が出ることがあります。 <u>予防には手洗い</u> が大切です。【6月号】
ヘルパンギーナ	流行	やや減少	主に乳幼児がかかる <u>夏かぜ</u> で、突然発熱し口の中に水ぶくれができます。患者のオムツを替えたら、 <u>よく手を洗い</u> ましょう。

今、気をつけたい感染症 腸管出血性大腸菌感染症

O157(オーイコナ)など**病原性大腸菌**に汚染された物を口にするのが原因です。食物から以外に、感染した**人から他の人**にもうつります。**腹痛と下痢**が何回も起き血便が出ます。抵抗力の弱い**乳幼児や高齢者**では**重症**になりやすいです。

市内では例年を上回る報告があり、**家族内での感染**も増えています。家庭での感染を防ぐには、**手洗いが重要**です。

下痢の症状がある人は、**他の人とタオルを別に**しましょう。

トイレは常に清潔にし、ドアノブ・水洗レバーなど手の触れる所は、特にていねいに掃除しましょう。

全国的には毎年、**保育施設における集団発生**が多くみられます。

オムツ交換の際の手洗いを徹底しましょう。

園児への排便後・食事前の手洗い指導も大切です。

簡易プール等の衛生管理にも注意が必要です。

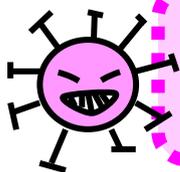


海外旅行先での 感染症

夏休み中は毎年、海外で感染症にかかるケースが増加します。渡航先での**感染症**にも注意しましょう。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】





感染症に気をつけよう！



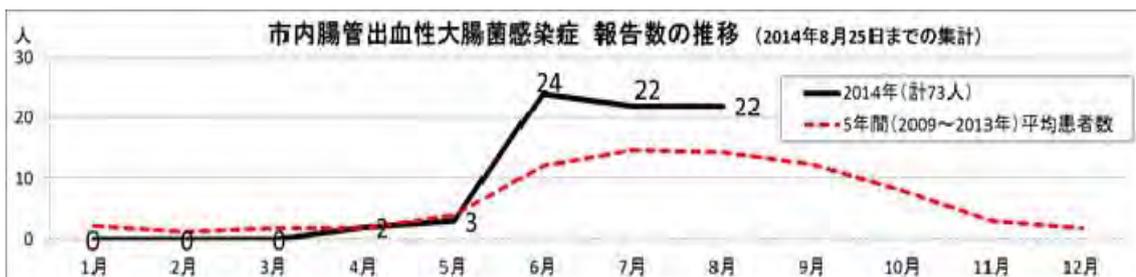
平成26年
【9月号】

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		説明 【 】は解説付き既刊号
腸管出血性 大腸菌感染症	流行	横ばい	6月以降、例年を上回る報告が続いています。下の解説を参考にして、 <u>9月にかけても注意</u> しましょう。【8月号】
伝染性紅斑 <small>こうはん</small>	やや流行	横ばい	リンゴ病とも呼ばれます。妊婦の感染では胎児に影響が出ることがあります。 <u>予防には手洗い</u> が大切です。【6月号】
ヘルパンギーナ	やや流行	やや減少	主に乳幼児がかかる <u>夏かぜ</u> で、突然発熱し口の中に水ぶくれができます。患者のオムツを替えたら、 <u>よく手を洗い</u> ましょう。

今、気をつけたい感染症 腸管出血性大腸菌感染症

O157(オーイコナ)など病原性大腸菌に汚染された物を口にするのが原因です。食物から以外に、感染した人から他の人にもうつります。腹痛と下痢が何回も起き、血便が出ます。抵抗力の弱い乳幼児や高齢者では重症になりやすいです。



市内の報告で、焼肉店での食事が原因の例や家族内での感染がみられました。他県では、キュウリを原因とした集団食中毒も発生しています。

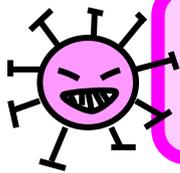
肉は十分に加熱(75℃ 1分以上)し、野菜等もよく洗いましょう。

家庭での感染防止には、手洗いが重要です。トイレは清潔に掃除し、ドアノブ等さわる所は、特にきれいにしましょう。

全国的には保育施設での集団発生が多いです。

オムツ交換時の手洗いを徹底しましょう。園児への排便後・食事前の手洗い指導も大切です。





感染症に気をつけよう！



平成26年
【10月号】

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		説明 【 】は解説付き既刊号
デング熱	✦ 散発	➡ 増加	市内でも国内感染例が報告されていますが、蚊の調査ではウイルスは検出されていません。蚊に注意して防ぎましょう。
腸管出血性 大腸菌感染症	☀ 流行	➡ 横ばい	9月も報告が多い状況が続いています。焼肉の加熱・食品の洗浄・手洗い等を十分に行い、予防しましょう。【9月号】

今、気をつけたい感染症 RSウイルス感染症

昔から冬場の風邪のひとつとして知られている感染症で、RS(アールエス)ウイルスが原因です。2～8日の潜伏期の後、発熱・鼻水から始まり、咳が続きますが、通常は7～12日で治ってきます。

年長の子供や大人も繰り返しかかりますが、重症になることは少ないです。

一方、乳幼児や高齢者、免疫の弱っている人では重症化する例が多くみられます。入院が必要になる場合もあるので、注意しましょう。



感染の仕方は、他の多くの風邪と同様です。患者の咳で生じた飛沫(しぶき)を吸い込んだり、患者の呼吸器からの分泌物で汚れた指や物を介して、ウイルスが目・のど・鼻の粘膜に付着することでうつります。

家族内で感染が広がりやすく、高齢者施設での集団発生も問題になります。



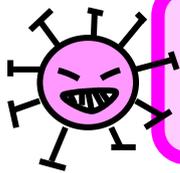
予防には手洗いが一番大切です。市内でも報告が増えています。

自分が感染しないためにも、他の人を感染させないためにも、いつも正しい手洗いをしっかり行いましょう。



横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】





感染症に気をつけよう！



平成26年
【11月号】

横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明 <small>【】は解説付き既刊号</small>
腸管出血性 大腸菌感染症	 流行	 横ばい	家族内感染や重症例(HUS)も報告されています。 食品の加熱・洗浄、手洗い等を十分に行い 予防しましょう。 【9月号】
インフルエンザ	 散発	 横ばい	学校での集団発生など、 市内でも報告が出始めて います。下の解説を参考にして、今から流行に備えましょう。 【2月号】

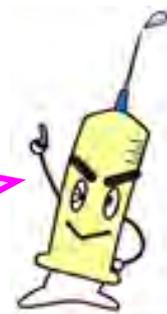
今、気をつけたい感染症 インフルエンザ

 すでに、先月10月の中旬には市内の小中学校で、今シーズン初めての学級閉鎖がありました。市内医療機関から患者の報告も出始めています。

 [インフルエンザワクチン](#)の接種がまだの場合は、[早目に接種](#)しましょう。

 [ワクチン](#)はインフルエンザの予防方法として大切です。[発症の可能性を減らし、発症しても重症化を防ぐ効果](#)があります。

 [ワクチン](#)の効果が期待できるのは、[接種した2週間後から5ヶ月程度まで](#)とされています。かかりつけ医に相談して、早目に受けましょう。



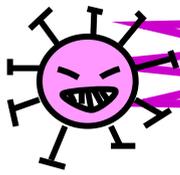
 また、[手洗い・うがい](#)をしっかりと行うことが、予防の基本です。普段から、[栄養と睡眠](#)を十分とって抵抗力を高めておきましょう。

 流行中は[人混みを避け](#)、もし症状が出たら、他の人にうつさないように、[咳エチケット](#)を守って早目に受診しましょう。



横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】





感染症に気をつけよう!



平成26年
【12月号】

横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明 <small>【 】は解説付き既刊号</small>
インフルエンザ	 流行	 増加	例年より早く11月下旬に流行期に入り、学級閉鎖も増えていきます。ワクチンと手洗いうがいで予防しましょう。【11月号】
RSウイルス感染症	 流行	 横ばい	冬の風邪の一つで、乳幼児や免疫力が弱まっていると重症化し易いです。予防には手洗いが最も大事です。【10月号】
感染性胃腸炎	 やや流行	 やや増加	集団感染も報告されています。例年、冬に流行するので注意が必要です。手洗い・消毒・加熱で防ぎましょう。【12月号】
伝染性紅斑 <small>こうはん</small>	 やや流行	 やや増加	リンゴ病とも呼ばれ、妊婦の感染では胎児に影響が出ることがあります。予防には手洗いが大切です。【6月号】

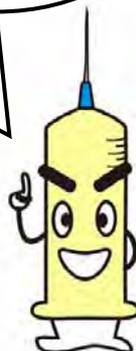
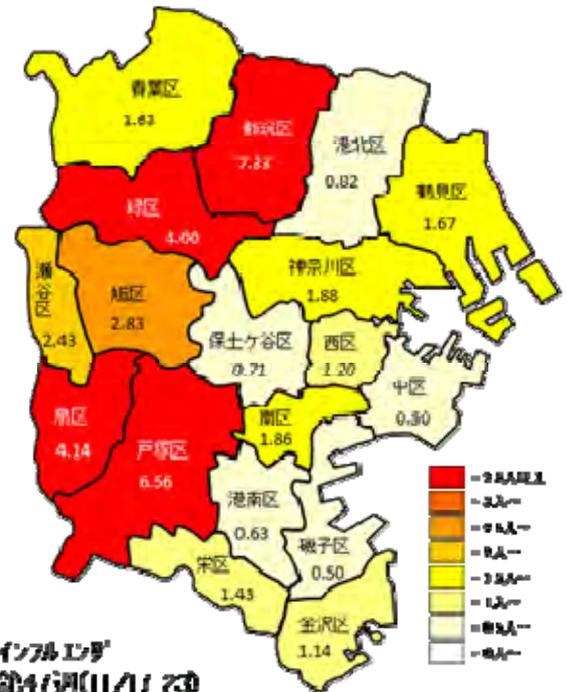
今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



地図の色が濃いほど、患者の報告数が多いことを表していて、市内各区ごとの流行の広がり方が分かります。

高齢者ではインフルエンザにかかると、その後、肺炎にかかり易くなってしまいます。予防には、インフルエンザワクチンだけでなく、肺炎球菌ワクチンも受けましょう。

もし症状が出てしまったら、他の人にうつさないよう、咳エチケットを守り早目に受診しましょう。



横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】



横浜市感染症発生動向調査事業概要
平成 26 年(2014 年)

横浜市健康福祉局 衛生研究所 感染症・疫学情報課
平成 27 年 12 月発行

〒236-0051 横浜市金沢区富岡東二丁目7番1号
Tel 045(370)9237
Fax 045(370)8462

紙へリサイクル可